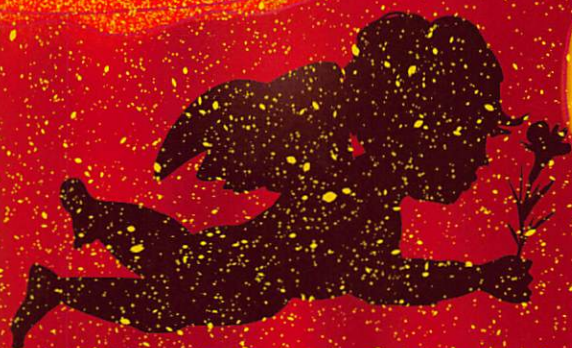




第66回

東西四大学 合唱演奏会



2017. 6. 25(SUN)

開場 14:30 開演 15:30

会場 すみだトリフォニーホール
大ホール



♪ ご挨拶 ♪

本日はご多用の中、第66回東西四大学合唱演奏会にご来場くださり、誠にありがとうございます。この東西四連も今年で66回目を迎えました。先輩方が積み重ねてきた歴史ある演奏会に新たな1ページを加えるかと思うと、身も心も非常に引き締まります。皆様からの期待を上回る演奏会となるよう全力を尽くす所存です。また、恐らく四校とも「他校に負けじ」と練習してきたことでしょう。この東西四連は各大学の意地の張り合いです。四大学それぞれの「意地」をお楽しみいただければ幸いです。

さて私たち関西学院グリークラブはトップバッターを務めます。演目は男声合唱組曲「富士山」。クラブモットー「メンタルハーモニー」の精神の下、東京スカイツリーよりも高い富士山の雄大さを表現したいと思いますので、どうぞお楽しみください。

最後になりましたが、この演奏会の開催にあたりお力添えをいただいたすべての方々に厚く御礼申し上げます。

関西学院グリークラブ 2017年度部長 嶋崎 裕基

本日はご多忙の中、第66回東西四大学合唱演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。こうして無事演奏会を迎えられること、心より感謝申し上げます。

私たち早稲田大学グリークラブは年4回の演奏会を活動の軸としており、その中でも、この東西四連では毎年、「挑戦」をしています。東西四連は私たちにとって、1年間に演奏する曲の中でも難易度の高い曲に挑戦し、高い音楽性を追求する場です。それがかなうのも東西の名門男声合唱団が一堂に会する本演奏会があるからであり、切磋琢磨できる環境があることに感謝しています。私たちは、これからの合唱界を担う合唱団であるために、挑戦する姿勢を、意欲を、持ち続けなければなりません。本日は私たちの「挑戦」をお聴き下さい。

末筆となりましたが、本日の演奏会を開催するにあたり多大なるご指導、ご尽力を賜りました諸先生方、関係者の皆様、そしてご来場いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

早稲田大学グリークラブ 第110代部長 後藤 貴央

本日はお忙しい中、第66回東西四大学合唱演奏会にお越し下さり誠にありがとうございます。伝統と実績のある東西の四大学が一堂に会して行われるこの演奏会は、聴く側にとっても演奏する側にとっても、本当に魅力的な演奏会だと思っております。各校がそれぞれ代々受け継いでいる独特の色を思う存分発揮しあい、学びあうことができます。これは「四連」でしか味わうことができないと思っております。他の三団体が持っている独特の色を味わいつつ、我々同志社グリークラブが代々受け継いでいる「聴衆と一体となった音楽」を胸に演奏したいと思います。

最後になりますが、本日の演奏会を開催するにあたり、多大なるご指導、ご尽力を賜りました諸先生方、関係者の方々、そして本日もご来場頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

同志社グリークラブ 第113代幹事長 服部 祥亮

本日はご多用の中、第66回東西四大学合唱演奏会にお越しいただき誠にありがとうございます。今年も変わりなく四大学が一堂に会して歌えることを大変喜ばしく思います。

演奏というものは古今東西多種多様に行われておりますが、各演奏間に絶対的な優劣は存在しません。しかしその一方で、評価の高いもの、後々まで語られるようなものは事実存在します。それらは聴いた者の琴線に触れ、感動させる力のある音楽ということでしょう。私たち四大学はそのような音楽を作ることを夢見て日々練習しております。もし私たちの演奏を聴いて心動かされるものがあれば幸いです。

末文となりましたが、演奏会を開催するにあたり多大なご指導・ご助力を賜りました諸先生方、諸先輩、関係者の皆様、そしてご来場いただきました皆様に深く御礼を申し上げます。

慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団 第142代責任者 武山 陸

The Big Four 66th Annual Concert

第66回 東西四大学合唱演奏会 プログラム

———— エール交歓 ————

第1ステージ 関西学院グリークラブ

男声合唱組曲 『富士山』

■作詩／草野心平 ■作曲／多田武彦 ■指揮／広瀬康夫

第2ステージ 早稲田大学グリークラブ

『北東欧アラカルトステージ
～若人と海～』

■指揮／松原千振

◆———— INTERMISSION ————◆

第3ステージ 同志社グリークラブ

『Missa Mater Patris』

■作曲／Josquin Des Prez ■編曲／Eliot Forbes ■指揮／伊東恵司

第4ステージ 慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団

男声合唱組曲 『ひたすらな道』

■作詩／高野喜久雄 ■作曲／高田三郎 ■指揮／佐藤正浩 ■ピアノ／前田勝則

◆———— INTERMISSION ————◆

第5ステージ 四大学合同ステージ

男声合唱版 『唱歌の四季』

■編曲／三善 晃 ■指揮／佐藤正浩 ■ピアノ／前田勝則 細見真理子

エール交歓

A Song For Kwansei

作詞: Edmund Blunden 作曲: 山田 耕作 編曲: 林 雄一郎

That we may both receive and give,
May live to learn, and learn to live,
Kwansei, we throng;
To you we throng, not first nor last,
Rejoicing in your fruitful past,
Through seasons clear or overcast
Still true and strong.

For us the present time is grace,
With thankful hearts we take our place,
Kwansei, our own;
And, each and all, will count these hours
Beneath your trees, beneath your towers,
One long succession of kind hours.
The sweetest known.
In every art, in every skill,
We promise you we bend our will,
Kwansei, to you;
And after-comers shall acclaim,
In faith and thought, in song and game,
Your love, your hope, your strength, your fame,
Still strong and true.

早稲田大学校歌

作詞: 相馬 御風 作曲: 東儀 鉄笛 編曲: 山田 耕作

都の西北 早稲田の森に
聳ゆる薨は われらが母校
われらが日ごろの 抱負を知るや
進取の精神 学の独立
現世を忘れぬ 久遠の理想
かがやくわれらが 行手を見よや
わせだ わせだ わせだ わせだ
わせだ わせだ わせだ

あれ見よかしこの 常磐の森は
心のふるさと われらが母校
集り散じて 人は変れど
仰ぐは同じき 理想の光
いざ声そろへて 空もとどろに
われらが母校の 名をばたたへん
わせだ わせだ わせだ わせだ
わせだ わせだ わせだ

Doshisha College Song

作詞:W.M.Vories 作曲:Carl Wilhelm

One purpose, Doshisha, thy name
Doth signify; one lofty aim;
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater, sons of thine
Shall be as branches to the vine;
Tho' through the world we wander far and wide,
Still in our hearts thy precepts shall abide!

Still broader than our land of birth,
We've learned the oneness of our Earth;
Still higher than self-love we find
The love and service of mankind.
Dear Alma Mater, sons of thine
Would strive to live the life divine;
That we may with increasing years have stood
For God, for Doshisha, and Brotherhood!

慶應義塾塾歌

作詞:富田 正文 作曲:信時 潔

見よ
風に鳴るわが旗を
新潮寄するあかつきの
嵐中にはためきて
文化の護りたからかに
貫き樹てし誇りあり
樹てんかな この旗を
強く雄々しく樹てんかな
あゝわが義塾
慶應 慶應 慶應

第1ステージ

関西学院グリークラブ

男声合唱組曲 『富士山』

■作詩：草野 心平
■作曲：多田 武彦
■指揮：広瀬 康夫

富嶽、五つの風景

草野心平は、「富士山」という同名の詩集を二つ作りしました。最初の「富士山」は、第壺から第貳拾肆(1～24)までの作品24篇。刊行は1943(S18)年、あたかも太平洋戦争真っ只中、詩人は40歳、中国在住のときでした。二つ目は1966(S41)年に棟方志功の版画を添えた詩画集として刊行しました。

この草野心平の詩集「富士山」の24の詩の中から、多田武彦は五つの詩を選び1956(S31)年に作曲。この男声合唱曲「富士山」は2年前の「柳河風俗詩」に続く第2作目です。初演は京都大学男声合唱団でした。

ところで、「富士には月見草が、よく似合う」と云ったのは太宰治です。万葉の山部赤人の名歌をはじめ、古今を通じて文人、画家、写真家が表現する富士山は様々な姿を我々に見せてくれます。

さて、草野心平この五つの詩は、富士山の風景をどのように表現し、そして何を我々に訴えるのでしょうか。

富士山

草野心平 詩 多田武彦 曲

「注」下記の詩文体裁は草野心平全集を参考。「草野心平は、すべての行を句点で終わらせる方法を自覚的に用いた。どんな行も句点で終わることによって、それが文章の流れの一部であるに留まらず、それ自身が独立した意味を担う塊なのだということを、読者に訴えかけるのだ」という。

(I) 作品第壺

籠には桃や桜や杏さき。／群がる花花に蝶は舞ひ。／億萬萬の蝶は舞ひ。／七色の霞たなびく。

夢みるわたくしの。／富士の祭典。

ぐるりいちめん花はさき。／ぐるりいちめん蝶は舞ひ。

昔からの楽器のすべては鳴り出すのだ。／種蒔きのように鳥はあつまり。日本のすべての鳥はあつまり。／楽器といっしょに歌ってゐる。

夢みるわたくしの。／富士の祭典。

七色の霞は雪に映え。／七色の陽炎になってゆらゆらする。／鹿や猪や熊や馬。人はぬいぬいか人もぬいぬい。

へうたんの酒や女の舞ひ。／標野の人も歌ってゐる。

ああ。／夢みるわたくしの。／富士の祭典。

遠く大雪嶺からは黄鳥が。／使者になって花を脚へて渡ってくる。／三つの海を渡ってくる。



<気になる言葉>

- ・億萬萬：とてつもなく非常に大きい数。
- ・標野：普通、シメノという。皇室などの所有する原野で獵場などにされ、一般の人の禁じられた所。
- ・標野といえば、万葉集にある額田女王の有名な歌を思い出す。彼女は、中大兄皇子（後の天智天皇）と弟君の大海人皇子（後の天武天皇）をともに愛した万葉詩人。天智天皇がある日、蒲生野の標野で大きな狩猟を催した後、後の一人である彼女は大海人皇子のその日の振舞いをこう歌った。「あかねさす紫野ゆき標野ゆき 野守は見ずや君が袖ふる」。つまり「人の目もはばからなくて袖なんか振って私に合図なざったりして〜。標野の番人に見られなかったかしら」と。古代の標野ロマンをご参考までに。
- ・大雪嶺：大山の頂上に雪をいただいている嶺。この詩ではヒマラヤという説あり。
- ・黄鳥：①うぐいすの異称。②コウライウグイスの異称。「海を渡ってくる」とあるので、ここでは②の「高麗うぐいす」のことである。鳴き声がよくいたためにこの名があるが、ウグイスとは科が別。羽は大部分美しい黄色。中国・朝鮮・台湾などに産。
- ・三つの海：大雪嶺がヒマラヤとすると、三つの海は黄海・東シナ海・日本海か。

<風景>

春の一日、富士山をとりまく大自然、百花繚乱の景観を背景に生きとし生けるものが繰り出している。富士の裾野に繰り広げられる豪華絢爛の一大ページェントだ。あれ〜外国の使者か、黄鳥まで飛来しているではないか。崇高にして雄大、我ら日本の誉れである富士山を大舞台にしたこの壮大なるファンタジー。心ゆくまで鑑賞しようではないか。

(II) 作品第肆

川面に春の光はまぶしく溢れ。そよ風が吹けば光たちの鬼ごっこ葦の葉のささやき。行行子は鳴く。行行子の舌にも春のひかり。

土提の下のうまごやし原に。／自分の顔は両掌のなかに。／ふりそそぐ春の光に却って物憂く。／眺めてみた。

少女たちはうまごやしの花を摘んで巧みな手さばきで花環をつくる。それをなはにして縄跳びをする。花環が円を描くとそのなかに富士がはひる。その度に富士は近づき。とほくに坐る。

耳には行行子。／類にはひかり。



(よしきり)



(うまごやし)

<気になる言葉>

- ・第肆：第四のこと。これは「大字」と称し漢字の数詞の代りに使う字をいう。壺 / 貳 / 参 / 肆 / 伍 / 陸 / 漆 (質) / 捌 / 玖 / 拾と表す。
- ・行行子：よしきり (葦切) のこと。オオヨシキリとコヨシキリの二種あり。オオヨシキリはウグイスに似ている。葦原にすみ、鳴き声が「ぎよぎよし」と聞えるので、俳人は行々子 (ぎよぎよし) と呼んだ。
- ・うまごやし：馬肥。マメ科の二年草。春、葉のわきに黄色の小さな蝶の形の花が咲く。

<風景>

当時の東京は千住大橋付近の土手の風景といわれる。あふれんばかりの春のひかりをうけて、荒川がきらきらと流れる。葦の葉すれとよしきりの鳴声の中、うまごやし咲き乱れる堤防の原っぱに座りこんでいる詩人。なぜか、彼は顔を掌にうずめてもの憂く春の景色を眺めていた。そこへ可愛い女の子たちがやってくる。明るくにぎやかな声をあげながら、うまごやしの花を摘んでいる。やがて、見事に大きな花環を作ったと思ったら、アレ〜、その花環で縄とびを始め出した。春のどかな日ざしの中、少女たちの明るい声はがはずんで土手の原っぱいっぱいひびく。黄色の花環の縄跳びの円の中に、遠くの富士がせまるよう。思いつかない富士の景色を見せてくれた少女たちのあどけない振舞いに、詩人の頬がほっと和むのです。

(Ⅲ) 作品第拾陸

(詩集「大白道」にも黒富士>なる題名で掲載)
 生久のはての。／はるかのはての山脈の。／その山脈からいちだん高く。
 黒富士。
 大いなる。／はるか。／黒富士。

さくらんぼ色はだんだん沈み。／上天に。
 金限取の。／雲一点。

<存在を超えた無限なもの。> / <存在に還へる無限なもの。>

祈りの如き。／はるか。／黒富士。



<気になる言葉>

- ・生久：観光案内によると、茨城県から富士山を眺めるのに良いポイントの一つは「牛久沼」という。牛久まではJR常磐線で上野から40～50分。ついであら、牛久の「うなぎ」は有名。
- ・黒富士：墨で画いたような富士。
- ・上天：①上にある天 (cf. 下土 = 大地 / 下界)。②上帝。天帝。
- ・金限取の雲：金色で境目をぼかしたような雲。
- ・存在を超えた無限なもの：「草野心平は富士山そのものだけを歌っているのではない。存在を超えた無限なもの、日本の屋根、民族精神の無量の糧として歌っているのだ。もともと富士山などというものは、天を背景にして存在するのだ。孤高の文士と言われた豊島与志雄（1955年没）の評論より。
- ・存在に還へる無限なもの：「富士山はもはや象徴である。現実の富士山の姿態などは問題でない。けれども、象徴は具象を離れては存在しない。心平の富士山はやはり美しい。その美しさが、平面的でなく、掘り下げられ深められているのを見るべきである」。同じく豊島与志雄の評論より。

<風景>

詩人は暮れなすむ富士を牛久沼から遠望している。はるか遠くの山脈からいちだんと高く、そこには墨で画いたような富士山。
 まさに天帝（天にあって宇宙を主宰する神）を思わせる墨で画いたような富士だ。
 さくらんぼ色だった空もだんだん沈んで、空には金色で境目をぼかしたような雲ひとつ。
 ああ、詩人は祈りにも似た気持ちで、富士の存在の神秘的な荘厳さをしみじみと感じているのだ。

(Ⅳ) 作品第拾捌

嗚呼。
 まるで紅色の狼火のように。／豊旗雲は満々と燃え。

その下に。
 ズーンと黙す。／黄銅色の大存在。

まぶしいぬるい光に浮ぶ数数の。／豊旗雲の。

その下の。
 地軸につづく。／黄銅色。

どこからか。そして湧きあがる。／天の楽音。



<気になる言葉>

- ・狼火：狼煙 / 烽火とも書く。火急の際の合図に、薪を焚き、または筒に火薬を込めて上げる煙。
- ・豊旗雲：旗のようになびいている美しい雲（豊は美称）。
- ・黙す：だまっている。
- ・黄銅色：真鍮いろ。
- ・地軸：大地を支えると想像された軸。(例. ～を揺るがす響き)
- ・楽音：楽の音

<風景>

赤く燃えるが如くなびく狼煙のような美しい雲の下に、どっしりと真鍮いろの大きな存在。まさに大地を支える地軸の頂点にどっしりと存在する、それが富士山なのだ
 どこからともなく巖かに、天の楽の音が湧きあがってくるようではないか。嗚呼、この荘厳なる富士の山。

(Ⅴ) 作品第貳拾壹 (宇宙線富士)

平野すれすれ。／雨雲屏風おもたくとざし。／その絶端に。／
 いきなりガッと。／夕映の。
 富士。
 降りそそぐそそぐ。／翠藍ガラスの。／大驟雨。



<気になる言葉>

- ・宇宙線富士：宇宙線 (cosmic rays) は、宇宙空間に存在する高エネルギーの放射線、およびそれらが地球大気に入射してつくる放射線をいう。つまり、富士山の持つパワーは宇宙空間に存在し、しかも地球にも大きな影響を与える放射線の如きものとして、富士山の存在の偉大さを比喩的に詩人は表現している。
- ・翠藍ガラス：普通「翠藍」なる表現はない。「翠」はみどり、「藍」はあい色。あい緑色のガラス。
- ・驟雨：急に降りだし、まもなく止んでしまう雨。夏の夕立や雷雨の類。

<風景>

裾野すれすれに雨雲が重く垂れこめている。あっ、いきなり屏風のような雨雲のぎりぎりの端に光がさした。富士は突如、夕映えに輝く。裾野では、とうとうアイ緑色ガラスのような夕立の驟雨だ。
 だが、彼方を見よ、富士が高エネルギーの宇宙線を放射するが如く、泰然として力強く夕日に照り輝いているではないか!

□心平の「富士山」に寄せる思い—ある外国人の感想—

草野心平がこの「富士山」を上梓したのが1943(S18)年だった。あたかも、太平洋戦争真っ只中、詩人が中国滞在の時である。戦時下の祖国日本への思い、ひとしおだつたと想像される。

草野心平全集には各巻に月報が付いており、種々、文人の所感が寄せられている。そこに、英訳者と称するある外国人の心平の「富士山」への一文があった。私なりに感を深くしたので、以下、その内容を抜粋しご紹介したい。(傍点：小生)

草野心平氏の詩はダイナミックで力強く、動きがあるというのが定評である。しかし「富士山」(昭和18年)においてはそれ以上に何かがある。

富士に単なる山よりももっと偉大なるものを見る敬虔な目。激しく大きい詩ながら、ふと感じられる情味。富士は空を鞭打つ竜であり、風や太陽を向こうにまわして闘うが、同時になんと静寂であり得ることか。(中略)

動乱の異郷中国でこれらの詩を書くとき、その原動力は日本を想う心であつただろうと思う。

富士は理想化され、日本の原点、真髄として唱われる。草野氏は古代の日本人が富士に見た原始的な粗いエネルギーをとらえ、それを何か純粋な不朽のもの、ただ単なる象徴ではなくそれ以上のものに結晶させている。(後略)

彼の名は「オーストラリア在住、L・モートン」とあつた。

以上
 (文責 矢島 康弘)

第2ステージ 早稲田大学グリークラブ

『北東欧アラカルトステージ』

指揮：松原 千振

北の海へ 松原千振

バルト海、北ヨーロッパの内海、海上交通と漁業において非常に重要な海であった。フィンランド、スウェーデン、バルト諸国、ロシア、ポーランド、ドイツ、デンマークの各国に及び、人々が行き通り、時には覇権を争う戦場となった。バルト海に浮かぶ島も数多く、各国の言語が特殊な形で交わってきた。例えば、エストニア領の島でスウェーデン語が話され、スウェーデン領の島で変わった形のフィンランド語が話されるなどしてきた。

バルト海はまた歌の地域でもあった。数々の民謡が育まれてきたが、その哀愁に満ちたメロディーは、やはり戦に関わるものが多い。ある歌においては「海の石、それは戦で亡くなった男たちの頭、海の水は亡くなった男たちの血」と語られている。

厳しい寒さの冬、この海は氷に閉ざされ、その昔人々は厚い氷の上に道を創り、それは郵便の道となり流通を可能とする程であったという。

ある島の教会の牧師はクリスマスの礼拝で先祖に思いを馳せ「自然の厳しいこの島に、どのように人々は辿り着き、家を建て、教会を創り、集落としたのだろうか」と語った。

バルト海は人々の海であり、人々は移り行く季節に耐えながらも、時には楽しみ、時を刻んできた。海とともに生きることが宿命であったエストニア人作曲家、V・トルミス。バルト海を目にすることにより、生まれて初めて海に出会ったチェコ人作曲家、B・スメタナ。両者によって残された海の歌には、海に存在する、美しさ、豊かさ、厳しさ等、多様な現象が写し出されている。

作曲家・曲目紹介

Muistse mere laulud (古代の海の歌)

作曲：ヴェリヨ・トルミス Veljo Tormis(1930～2017)

1930年エストニアの首都タリン郊外にあるクーサルに生まれる。合唱指揮、オルガン演奏を行っていた父、合唱団に所属していた母に囲まれ、トルミス自身幼い頃から音楽に触れ合っていた。この経験が彼を作曲家の道へと導いたと言われている。43年からタリン音楽院でオルガンと合唱指揮を、51年からはモスクワ音楽院で作曲法を中心に学んだ。卒業後はタリン音楽院で教鞭をとり、エストニア作曲家同盟でも活動していたが、69年以降は作曲に専念している。在学中よりエストニアをはじめとした、バルト諸国などの民俗音楽に興味を示し、自身の音楽作品にもそれらを生かしていくようになる。特に60年代はエストニアの地方を旅し、地方に伝わる民謡などを採集した。これは「エストニア・カレンダーソング」という大きな合唱曲集に結実している。その後も民謡的な素材を生かした作品を多く作曲しているが、トルミスは原資料に対して真正な態度で向かい、人々の生活や習慣なども内包した親しみやすい作品を作ること成功している。67年にエストニア共和国功労芸術家、87年にはソヴィエト連邦人民芸術家に選ばれた。

主要作品はオペラ、「白鳥の飛翔」(67年全ソ劇音楽コンクール最優秀作品)、「序曲第2番」、合唱作品には「エストニア・カレンダーソング」、「忘れられた人々」、「鉄を呪え」など多数(約200近い作品が存在)。

1980年モスクワ五輪が開催され、エストニアの首都タリンでレガッタ(ボート)の試合が行われた。この作品はその際に委嘱を受けたもので開催の前年、79年に完成した。トルミスは「海」を題材にし、エストニアの北海岸に伝わる「ルノ」という歌を用いて作曲を行っている。「ルノ」は音楽的な要素というよりも、言葉として語られるような抒情詩の性格を持っている。基本単位は主として長短の音節が交代する8音節の詩行であり、ここに旋律がつけられる。旋律は短い周期で反復し、他の詩の言葉にもそのまま同じ旋律が使われる。本作品に使われている「ルノ」は73～74年に初めて作曲者により文章化されたが、「ルノ」の旋律にはほとんど手を加えず作曲している。

曲には海に関するテキストが8つ使われている。海に暮らす人々の生活や海的情景、人の悲しみ、海への願いを表したものなど、実に内容も様々である。トルミスはこれらを一つの話の流れのように配置し、ドラマチックな音楽を作ること成功している。曲はうねりのようなヴォカリーズ(言葉はなく、母音で歌う部分)により支配されており、遥か昔から今もなお続く自然と人間の暮らしを物語っているようでもある。

まず神秘的なヴォカリーズにより開始し、バスから第一節が歌われる。不吉な予言の言葉が歌い継がれ、徐々に音楽が高まりを見せ始めると、第二、三、四節に入る。ここでは海と人との交わりが、潮の音の模倣や掛け声を伴って歌われる。次第に陰鬱な雰囲気を作り、合唱が増4度のハーモニーを形成すると第五節へ。ここでは肉親を失った人間の悲しみがソロにより切々と語られる。第六節では波を模倣したヴォカリーズのなかを、テノール、バリトンが旋律を歌う。時折力もめがあざ笑うかのように鳴き声をあげ、それに応じて合唱による嵐もクライマックスを迎える。続いて第七節では、ソロが肉親の安全を祈り淡々と歌い進める。そして第八節は大きな願いの音楽に。第一節の旋律が回帰し、「空よ天よ、晴れろ」と歌われる。旋律は次第に途切れ、海の永遠の摂理の中に吸い込まれるように消えていく。

Píseň Na Moři (海の歌)

作曲：ベドルジハ・スメタナ Bedřich Smetana (1824-1884)

オペラ「売られた花嫁」、管弦楽組曲「我が祖国」等で有名なチェコ人作曲家スメタナは、若い頃から合唱曲の創造にも尽力した人であった。そして実際に合唱団の指揮者として活動した経験もある。20代の合唱曲は、J.S.Bachの影響を思わせる「Jesu, meine Freude」(イエス、我が喜び)、「Lobet den Herrn」(主を賛美せよ)等、堅実な手法の作品を残してきた。その後、愛国的な作品「自由の歌」(1848)、「3人の騎手」(1862)、「農夫」(1868)等の力に満ちた音楽を作っていた。

1856年、スメタナは新天地を求めて、スウェーデンに旅立った。それは、ブラハへの幻滅、批評家との軋轢が要因と言われている。スウェーデン南部の町イエテボリでは音楽院での教育活動、合唱指揮等において社会的に認められていた。

1877年、既に祖国に戻っていたスメタナは規模のある男声合唱曲「海の歌」を作曲した。詩は同時代の詩人でジャーナリストのヴィーチュスラフ・ハーレクによる力強さとロマンに満ちた作品である。全体は5つの部分から構成され、航海の始まり、人々との別れ、そして海の様子、再び陸を目にした時の喜びが描かれている。スメタナは各部分に配されているハロー、ハローという掛声を力強く、和声的に作曲し、音楽を引き締めている。またチェコ人としての作曲家らしく、民族舞踊のリズムを取り入れ、快く軽やかな雰囲気も醸し出している。海のない国に生まれ育ったスメタナが「海の歌」を作曲したことについて、スウェーデンに向かう時、生まれて初めて海を目にし、その経験からこの歌が生まれたと後に書き記している。

晩年、スメタナは聴覚を失い、病に悩まされる日が続いた。精神的にも不安定となり、1884年、入院したままこの世を去った。しかし、スメタナの残した「海の歌」等の男声合唱曲は、その後のヤナーチェク、マルティヌー、スーク等に影響を与え、合唱のチェコが形造られてゆくことになった。

歌 詞

ディクショソ指導：坂巻賢一、Martina Formanová

Muistse mere laulut (古代の海の歌)

I	liid tõusevad idasta teised tõusevad kagusta kolmandad veel lõuna'asta. Kui need kolmed kokku saavad, Siis nad vihma veeretavad, Piivied laineida lasevad. Sajavad savised piived, tinakarvased tibavad, mustad muidu hirmutavad.	東から強風が吹きつける 南東から別の風が 南から第三の風が吹いてくる みつどもえになって 雨を巻き上げ 雲は波を揺るがす 粘土のような雲は雨を降らせ 鉛色の雲は驟雨を降らせ 黒雲は恐怖を与えるだろう	VI	Ei saa rannassa magada, rannas on mere mürina, (Imitatsioon:Kajak, kajak, kajak...) hüüdvad hülged, laulvad lagled, karjuvad merekajakad: Tõuske üles, rannarahvas, ärgake mereisandad, ärgake mereemandad, tõuske võrku võttemaie, kalanoota katsumaie! (Hõige:Ankur, legoo!) Meri tõuseb tormamaie, randa hakkab raksumaie, merekivid kikkamaie, rannapaed paukumaie.	海岸では誰も眠れない 海は咆哮する (カモメのまね：カヤク カヤク カヤク) アザラシが鳴き、コクガンが歌う カモメが金切り声で 起きろ、海岸の者たち 目を覚ませ、海の親方 目を覚ませ、海のおかみさん 地引き網をよく見ろ (さあ、錠をおろせ) 海は凧を起こし 岸は駆け始める 岩礁は金切り声をあげ 海岸線はとどろき始める
II	Mina aga mees meremehe poega, kallis mees kalamehe poega, küül mina tunnen tuuled nõuda, tuuled nõuda, mered sõuda, põhjatult purjetada, lõunatuulta lüüa loovi, servi tuulta seisatada, vastu päevada puhata. (Hõige:Purjed üles!) Purjetan Punasta merda, rohelist Rootsia merda, tormilista Turja merda, harglist Harju merda, Viru merda virgejada, oma merda õigejada. (Ahoi,ahoi!)	だが俺は船乗りの子 大した奴さ 漁師の息子 風の扱いも心得ているし 海を漕ぎ行くことも出来る 北風の中を帆走することだって出来る 朝風に飛び込むことも 風を止めることも 風を回すことも (さあ、帆を揚げろ！) 紅海にも行った スウェーデンの緑の海も航海した トルマヤの嵐の海も ハリユの危険な海も 活気溢れるグイルの海も そして申し分ない我が海も (アホーイ！アホーイ！)	VII	Ei ole luba tuulel tulla, tuulel tulla, lainel lassa, lainel lassa, saul sadada, pahal ilmal paugudella. Mul on vendani vesillä, ode on mere onilla, taati on mere tagana, emä hellä Helsingissä. Las tuleb vendani vesilä, ode tuleb mere onilla taati tuleb mere taganta, emä hellä Helsingistä. Siis on luba tuulel tulla, tuulel tulla, lainel lassa.	風は来てはならない 嵐も波も来てはならない 浪も雨も来てはならない 悪天候すら来てはならない 俺は兄を船に乗せた そして姉は海に 親父は海の彼方 いとしい母はヘルシンキに 兄が海から戻ってきますように 姉が海から戻ってきますように 父が海の向こうから戻ってきますように 母がヘルシンキから戻ってきますように そうしたら風は吹いてもよい 波も逆巻いてもよい
III	Tule aga tule, tursukene, merekõhja põrsukene, tule minu kuldse koogu otsa, hõbedase õnge otsa!	さあ来い、トラよ来い 海の底の小さな子豚よ 来い、俺の金の釣へ 来い、俺の銀の釣へ	VIII	Selgi, selgi, ilmakene, selgi, ilma selge'eksi, klaari, taevas, lahke'eksi, vaali, taevas, valge'eksi!	晴れ上がり、晴れ上がり、天よ 晴れ上がり 晴れ上がり、空よ ま新しい好意的な顔を見せよ！
IV	Meri meid sõõtnud, meri meid jootnud, meri on võtnud mitu meest.	海は我らを襲い 水を与え 多くの男たちを連れ去った			
V	Oli mul kolmi vennakesta. Ühe mina saatsin karjamaale, teise saatsin marjamaale, kolmanda kalamerele. Vend tuli koju karjamaalta, teine vanda marjamaalta, ei tuinud kalamerelt. Vesi oli viinud multa venna, vesi viinud, tuul ajanud, kallas kõrge kaotanud. Kuu ma nutsin venna kuube päeva nutsin venna pärga, eluaia vennakesta.	昔、俺には三人の兄弟がいた ひとりとは牧草地に 二人目は木の奥の畑に 三人目は海に魚を釣りに行った 牧草地からは帰ってきた 木の奥の畑からは帰ってきた 漁からは誰も帰ってこなかった 水は兄を迎え去った 水は彼を迎え去って、嵐は彼を投げ捨てた 高い海岸は彼を見失った 一月というものは、俺は兄の外套のために泣いた 一日中、俺は兄の花輪のために泣いた そして一生涯、俺は兄のために泣いた			

Píseň Na Moři (海の歌)

Haló! Již plachty napněte, stožár utužte lanem, již kotva z tůně zvednuta, a větrů přizeň pánem. Tak vesele hrá korouhev, moře tak jasno, blaho, nuž ke kormidlu, k sklenici— haló! halo!	ハローハロー もう帆をはれ 柱を縄でしばれ もう先端の錨は引き上げられ 風は神の御加護により吹く 旗が気持ちよくはためき 海は明るく清々しい さあ舵に行け 祝え ハローハロー	Hle, zmizel kraj a moře skvost již bez hranic a mezi— pod nebem druhá nebes bání, zem bez pouta a stezi, Aj, jak to mysl rozhrňívá— tu cítíme, co blaho! tu píseň teprv zpína zní— haló! halo!	陸が消え 素晴らしい海上 境が全くない 空のもとに第2の空 そこは嵐も苦勞のない大地 思いが熱くなる そして神の祝福を思う 歌が響きわたってゆく ハローハロー
Jen ještě pohled k přístavu! Tam „sbohem!“ Kynou šátky, tam čapky letí— nuž adě, necht' loučení čas krátký! Tam sizu vidím dokona, jež roslí tváře blaho: ej, vína sem, ať zazní zpěv— haló! halo!	もう一度港を見よ そこで別れの布が振られる そこで帽子が舞う 別れの時よ短くあれ そして涙を見る 涙は眼を潤らす さあワインを持ってこい ハローハロー	Aj hle, ten ostrov roznmilý, jak vynořil se z pěny! Tam kormidlem teď zavേശuj— jakť mocně rozložej— Hle, již nám v ruce tleskají, zrak zničený tak blaho: Nuž čapky vzhůru, vitejte— haló! halo!	見よ 親しみあるあの島を それは波の泡の間にそびえる あそこへ舵をとって漕いでゆこう 力強く！ 見よ 人々は既に私たちに拍手を送っている この素晴らしい風景 帽子が舞い上る ここにたどり着く ハローハロー
A nyní počnem vesele: Jak réva barví břehy, jak blednou města, vesnice, jak vzduch tu plný něhy! A jak to moře modravé, v něm houpem se tak blaho, to teprv ducha rozpíná— haló! halo!	さあ陽気に始めよう 木が岸を彩っている 町も村もその色が冴々 大地は心地良さに満ち 海は何と偉いことか 波は心地良くうねる こうなると心が引き締まるのだ ハローハロー		

第3ステージ

同志社グリークラブ

『Missa Mater Patris』

■作曲：Josquin Des Prez
■編曲：Eliot Forbes
■指揮：伊東 恵司

□ミサ曲解説

ミサ曲とは、カトリック教会におけるミサという典礼儀式で用いられている曲です。ミサ曲の基本的な構成としては、「Kyrie」「Gloria」「Credo」「Sanctus」「Agnus Dei」の五曲です。これらの五曲の詩は通常文といい、ミサ曲を作曲する場合必ず同じ典礼文が用いられます。

□作曲者解説

ジョスカン・デ・プレ (Josquin Des Prez 1450 頃 - 1521) は、15 世紀末から 16 世紀にかけヨーロッパの音楽をリードしたフランドル楽派の中で最大の音楽家であり、ルネサンス時代の最高峰に位置する作曲家とも言われています。ちょうどレオナルド・ダ・ヴィンチと同時代に活躍したジョスカンは、レオナルドが美術で果たした役割を、音楽において果たした作曲家であるとも評価されています。

ジョスカンは、1486 年から 1494 年にかけて音楽団への所属、聖歌隊、歌手による活動を通じた後、1501 年からはフランス国王ルイ 12 世の宮廷で、1503 年から 1504 年にかけてはフェラーラ公エルコーレ 1 世の宮廷礼拝堂楽長として活躍しました。1504 年ノートル・ダム教会の主任司祭に就任した以後はここで晩年を過ごし、1521 年にこの地で没しています。

デプレの宗教曲の特徴としては、模倣の手法を主要な作曲技法とし、彼の作曲技術が遺憾なく発揮された物であると同時に、端正な美しさも併せ持ち、当時の作曲家にとって規範として見られていたと言われています。

□歌詞紹介

・ Kyrie

憐れみゆたかな神への賛歌です。「Kyrie eleison」、「Christe eleison」という文章を通し、自らの罪深さを懺悔するとともに、神への悔い改めを告白する文章となっています。

・ Gloria

神の栄光を讃える賛歌です。冒頭のソロを皮切りに、合唱による神とキリストへの嘆願を含んだ賛美が次々と続きます。

・ Credo

信仰宣言、あるいは使徒信条とも言われる典礼文です。ミサにおいてこの典礼文は、キリスト教徒の信条をまとめた物として重視されており、三位一体の信仰告白と復活、そして来世への生命を待望する、厳格かつ重大な文章となっています。

・ Sanctus Benedictus

感謝の典礼文です。Sanctus はラテン語で「聖なるかな」という意味であり、この典礼文は冒頭で Sanctus を三回唱えるため、三聖頌とも言われます。Benedictus と合わせ、神への讃美と祝福を祈った文章となっています。

・ Agnus Dei

憐れみと平和の賛歌です。「Agnus Dei」「神の小羊」はキリストの事を指し、キリストへの憐れみは Kyrie への再帰を感じさせると同時に、この典礼文では全人類の平和も願っており、天と地の双方に向けた文章となっています。

□ 歌 詞

Missa Mater Patris

作曲：Josquin Des Prez 指揮：伊東 恵司

Kyrie

Kyrie eleison. Kyrie eleison. Kyrie eleison. 主よ、あわれみたまえ。
 Christe eleison. Christe eleison. Christe eleison. キリストよ、あわれみたまえ。
 Kyrie eleison. Kyrie eleison. Kyrie eleison. 主よ、あわれみたまえ。

Gloria

Gloria in excelsis Deo. 天のいと高きところには、神に栄光あれ。
 Et in terra pax hominibus bonae voluntatis. 地には、善悪の人に平和あれ。
 Laudamus te. Benedicimus te. われら主をほめ、主をたたえ。
 Adoramus te. Glorificamus te. 主をおがみ、主をあがめ。
 Gratias agimus tibi 主の大いなる栄光のゆえに
 propter magnam gloriam tuam. 主に感謝してたてまつる。
 Domine Deus. Rex caelestis. 神なる主、天の王。
 Deus Pater omnipotens. 全能の父なる神よ。
 Domine Fili unigenite. 主なる御ひとり子。
 Jesu Christe. イエズス・キリストよ。
 Domine Deus. Agnus Dei. Filius Patris. 神なる主、神の子羊、父の御子よ。
 Qui tollis peccata mundi, 世の罪を除きたもう主よ、
 miserere nobis. われらをあわれみたまえ。
 Qui tollis peccata mundi, 世の罪を除きたもう主よ、
 suscipe deprecationem nostram. われらの願いをききいれたまえ。
 Qui sedes ad dexteram Patris. 父の右に座したもう主よ、
 miserere nobis. われらをあわれみたまえ。
 Quoniam tu solus sanctus. 主のみ聖なり。
 Tu solus Dominus. 主のみ王なり。
 Tu solus altissimus. Jesu Christe. 主のみいと高し、イエズス・キリストよ。
 Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris. 聖霊とともに、父なる神の栄光のうちに。
 Amen. アーメン。

Credo

Credo in unum Deum. 我は信ず、唯一の神。
 Patrem omnipotentem factorem caeli et terrae, 全能の父、天と地、見ゆるもの、
 visibilium omnium, et invisibilium. 見えざるもの、すべての造り主を。
 Et in unum Dominum Jesum Christum, われは信ず、唯一の主、神のおんひとり子、
 Filium Dei unigenitum. イエズス・キリストを。
 Et ex Patre natum ante omnia saecula. よろず世のさきに父より生まれ、
 Deum de Deo. lumen de lumine, 神よりの神、光よりの光、
 Deum verum de Deo vero. まことの神よりのまことの神。
 Genitum, non factum, consubstantialem Patri: 造られずして生まれ、父と一体なり。
 per quem omnia facta sunt. すべては主によりて造られたり。
 Qui propter nos homines, 主はわれら人類のため、また
 et propter nostram salutem, descendit de caelis. われらの救いのために、天よりくだり、
 Et incarnatus est de Spiritu Sancto 聖霊によりて、処女マリアより
 ex Maria Virgine :Et homo factus est. おんからだをうけ、人となりたまえり
 Crucifixus etiam pro nobis : ポンツィウス・ピラトゥスのもとにて、
 sub Pontio Pilato passus, われらのために十字架につけられ、

et sepultus est. 苦しみをうけ、葬られたまえり。
 Et resurrexit tertia die, secundum Scripturas. 聖書にありごとく、三日目によみがえり、
 Et ascendit in caelum : sedet ad dexteram Patris. 天にのぼりて父の右に座したもう。
 Et iterum venturus est cum gloria 栄光のうちに再び来たり、
 judicare vivos et mortuos : 生ける人と死せる人とをさばきたもう。
 cujus regni non erit finis. 主の国は終わることなし。
 Et in Spiritum Sanctum, Dominum et vivificantem : われは信ず、主なる聖霊、生命の与え主を。
 qui ex Patre Filioque procedit. 聖霊は、父と子よりいで、
 Qui cum Patre et Filio simul adoratur, 父と子とともに尾上あがめられ、
 et conglorificatur : qui locutus est per Prophetas. また預言者によりて語りたまえり。
 Et unam sanctam catholicam et apostolicam 一・聖・公・使徒継承の
 Ecclesiam. 教会を信じ、
 Confiteor unum baptisma 罪のゆるしのためなる
 in remissionem peccatorum. 唯一の洗礼をみとめ、
 Et exspecto resurrectionem mortuorum. 死者のよみがえりと
 Et vitam venturi saeculi. 来世の生命とを待ち望む。
 Amen. アーメン。

Sanctus

Sanctus, sanctus, sanctus 聖なるかな、聖なるかな、
 Dominus Deus Sabaoth. 聖なるかな、万軍の神なる主。
 Pleni sunt caeli et terra gloria tua. 主の栄光は天地にみつ。
 Hosanna in excelsis. 天のいと高きところにホザンナ。

Benedictus

Benedictus qui venit in nomine Domini. ほむべきかな、主の名によりて来たる者。
 Hosanna in excelsis. 天のいと高きところにホザンナ。

Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi: 神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、
 miserere nobis. われらをあわれみたまえ。
 Agnus Dei, qui tollis peccata mundi: 神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、
 miserere nobis. われらをあわれみたまえ。
 Agnus Dei, qui tollis peccata mundi: 神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、
 dona nobis pacem. われらに平安を与えたまえ。

第4ステージ

慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団

男声合唱組曲『ひたすらな道』

■作 詩：高野喜久雄
■作 曲：高田 三郎
■指 揮：佐藤 正浩
■ピアノ：前田 勝則

□作詩者紹介

1927年、新潟県佐渡市に生まれる。宇都宮高等農林学校（現・宇都宮大学）に学んだのち、神奈川県立高等学校で数学教諭を務めた。その傍ら、鮎川信夫らを中心に結成された文人サロン「荒地」に属し、創作に励んだ。ドイツの哲学者・ハイデッガーに激しく傾倒し、「存在」の意味を探求した戦後派詩人である。作品総体から推し量ると、カトリック的な色彩が強い一方、仏教的「空（くう）」の思想の影響も多分に受けていたことがうかがえる。宗教的関心を示さなかった多くの戦後知識人の中で、求道者としての立場を貫いた稀有な文化人である。

□作曲者紹介

1913年、愛知県名古屋市に生まれる。武蔵野音楽学校（現・武蔵野音楽大学）師範科で和声法を学んだのち、東京音楽学校（現・東京藝術大学）本科作曲部を卒業、同校研究科作曲部および聴講科指揮部に学んだ。NHK から合唱曲の委嘱を受けたことが契機となって、作詩者に会い、以来多くの作曲を手掛けた。とりわけ、合唱組曲「水のいのち」（1964）は白眉と称され、わが国の合唱曲の中で不動の地位を誇っている。厳格な指導と愛情に満ちた性格で知られ、今なお存在感を放ち続ける合唱界の巨人である。

□曲紹介

高野の詩作にみられる特徴は、形象を与える言葉が極めて少ない点である。詩中の言葉は超感覚的な、あるいは抽象的なものが多い。にもかかわらず、それを自らの思想と巧みな暗喩、鮮明な映像性によって一つの作品にまとめ上げている点が、高野の妙である。

「1. 姫」では、つたえの真偽を確かめようとする「わたし」が一人山道を登って池を目指す。池は無気味でありながらも、「わたし」を惹きつける存在である。池になることを望む「わたし」は小石を投げ込む。しかし、池は何も応えない。自分の愚かしさを自嘲しながら山道を下る「わたし」はふと、投げ込んだ小石を己の中に見る。

恋人に背かれたのか、あるいは肉親に裏切られたのか。憶測の域を出ないが、「わたし」の抱える悩みはよほど深刻であったろう。しかし、絶望に打ちひしがれる「わたし」に対して、池は何らの答えも提示してくれなかった。だが、それゆえに「わたし」は「姫」が抱えていた孤独に気が付いたのである。沈んでゆく小石を彷彿とさせるピアノは、「わたし」が「姫」を真の意味で理解したことを表している。

「2. 白鳥」では、群れからはぐれた一羽の白鳥が、氷の張った湖面から飛び立とうともがく姿が描かれている。白鳥は、自らの両足を失いながらも空高く舞い上がる。春が訪れ、厚い氷がすっかり溶けた湖面に浮かぶ両足。白鳥はそれらをくわえて静かに飛び去る。

必死にもがく白鳥。それは、大切なものを犠牲にしても見果てぬ夢を追いかける人間の姿に重なる。中盤、感嘆の声と昇天を想起させるピアノの旋律に抱かれて、白鳥は絵のように舞い飛ぶ。一方、取り残された生々しい両足とのコントラストは、そのグロテスクさゆえに、かえって人生を鮮烈に表現している。春になって戻ってくる白鳥は、仏教的「輪廻」的思想を匂わせる。われわれは結局、円環性の中に生きているということをまざまざと実感するだろう。

「3. 弦」では、人間の願いを託された弦が張り詰めた緊張の中で必死に音を紡ぐ。だが、あまりの高さにその音は誰の耳にも届かない。弦を張る「両はし」も、また「問い」や「ことば」までも捨て去り、「わたし」はついに弦そのものに「存在」を見出す。そのとき、「わたし」はその弦をこそ「いのち」としたいと叫ぶのである。

「存在」を追い求めた高野の、実存主義的な思想が弦には託されている。だが、必死の叫びでありながらも、音楽は実に冷静である。特に印象的なのは、半ば突き放したような終盤のフレーズである。高田は本作の演奏にあたって、「相当劇的であってよい」という言葉を遺している。終盤を pp に託したのは、「わたし」の願いを押し付けがましいものにするのを避けたからであろう。逆説的だが、なればこそ「劇的」であり「ひたすら」なのである。「あのいのちをこそ いのちとしたい」という静かな叫びは、われわれに生の意味を問いかけてくる。

（文責 金子 晃久）

参考文献：展望現代の詩歌（飛高隆夫、野山高正 編）明治書院 2007.1

□ 歌 詞

ひたすらな道

高野 喜久雄 詩

1. 姫

むかし

そむかれて 狂った姫はとり乱し
 叫びつけて その山道をのぼりつめ
 そこに ぼったりたおれたのだ
 そこで 姫は一夜のうちに池になった
 つたえを信じる人々は
 だから その池を姫と呼ぶ

近寄るな 近寄れば姫はとりすがり返さない
 ただ ひとりの死体さえ ついにかえたためしがない
 その無気味な池の岸に とある日
 わたしもまた 出来れば池になりたいとひそかにおもいつめていた
 おもい余って ひとつの小石を投げこんだが
 姫はただ かすかなしづきと水音をたて
 ただの まるい波紋を岸辺につたえるのみだった

それ以上 なにごとも
 なにごとも 起りはしなかった

そして わたし
 さみしく苦笑いして
 その山道を下るときだった
 わたしは見た たしかにわたしは
 見た わたしの中にありありと
 まざれもない さっきの小石が
 ゆっくりと沈むのを ……………

2. 白鳥

夢ばかり見ていた白鳥
 群れからはぐれて ひとり湖の上
 眠りすぎていた白鳥

目ざめると誰もいない
 いてつく冬の朝
 見わたす限りの氷

とびたとうともがく
 もがく もがくが

両足は かたい氷の中だ
 大きな翼を激しく 搦ち
 もがき あばれ狂う時
 両足はもう断ち切れそうだ
 きれる きれる きれる
 きれてもなおとぶのだ

おお 白鳥は遂にふり切ってとびたつた
 すばらしい絵のように空の果てにとび去つた

やがて春が来た
 二本の足が湖に浮いていた

おお そして 信じてほしい 間もなくのことだ
 やはり あの両足のない白鳥が
 湖の上を舞い
 幾日も舞いながら
 遂にその両足を見つけ
 口にくわえてとび去つた

3. 弦

いま わたしは願う
 わたしはただの弦 ひとすじの切なる弦でありたいと
 その両はしが 何んであれ
 苦しいわたしの何んであれ
 ひたすらに 問いも忘れ ことばも忘れ
 きびしく逆向きの力に耐えて張られたただの弦
 ぎりぎりの力で張られ
 ぎりぎりの力で踏み耐える
 ぎりぎりの弦のいのちをいのちとしたいと

そして わたしは わたしをつまびく
 きこえるうちは駄目なのだ 未だ駄目なのだ!

最も高い音は 音として
 誰の耳にも きこえてこない
 あのきこえない高さで 鳴りひびく弦
 また その高さに耐える弦
 けっして切れず
 けっしてひるまず
 けっして在るわけ 張られたわけをうたわない弦
 あかしはいつも この弦の
 この非常な高さからのみやってくる
 とおもわれてならない とある夕暮
 いなごのような眼をつむる
 傷口のような口を閉じ
 そしてわたしはいちずにおもう
 あの弦だ
 人の耳にはただの沈黙
 ただの唾としてしか ひびかない弦
 あのいのちをこそ いのちとしたいと

第5ステージ

四大学合同ステージ

男声合唱版 『唱歌の四季』

■編曲：三善 晃
■指揮：佐藤 正浩
■ピアノ：前田 勝則
細見真理子

□唱歌の四季 解説

1年を通して日本に暮らすと、自然は実に様々な顔を覗かせてくれる。暖かな日差しに花が咲き、青空の下ぐんぐんと草が伸びると、いつしか木々は紅く色付き、一面は雪に覆われて葉が落ちる。その移ろいにいつも寄り添い、春夏秋冬と名付けた。

季語をもって詩う文化を誇る我々が、時節を愛でて歌うのは自然なことである。『唱歌の四季』がずっと心に溶け込み、懐かしいふるさとを想起させるのも、自然の中に生き続けてきた証かもしれない。

1曲目『朧月夜』は、1年のうち春を謡っている。詞は韻を踏んでいて、4+4+3+3の心地よいリズムで進む。1番は視覚に訴える世界。しかし、末の1文で急に「におい」に迫るのは、情景を立体的に表すためだろうか。2番は「も」を多用して、登場人物を並べた後、しかし何よりも存在感があるのは朧月夜だと讃える。

2曲目『茶摘み』は、夏の1歩手前。八十八夜とは立春から88日目のこと。状況説明と台詞が交互にくることが特徴である。1番では「あれに見えるは」と、まるで通りすがりの人が語るよう。2番は一転、茶畑にぐっと近づき摘む人たちの視点。さながら労働歌のように歌われる。

3曲目は秋を唱う『紅葉』。詩は7+7の韻律で進むが、末の一言だけは5文字ですっと収まる。当てられた言葉は「裾模様」と「織る錦」だが、ただ紅葉の彩りのみを想っているわけではない。落葉に躍動を感じるのだ。くまなく風景を描写したあと、最後に紅葉は別のなにかに喩えられる。ぴたっと止まる5文字が何とも印象深く、読む者聴く者は山々に誘われる。

4曲目『雪』は冬。まるで音遊びのような楽しさがある。和音を低声として支える事が多いベースやバリトンに、「こんこんこんこん」と軽快なリズムが与えられているのだ。終始流れる音の粒は、降り続ける雪の音や遊ぶ子供たちの足音を擬音しているのだろうか。

最後5曲目は『夕焼小焼』。元々アンコール用に編曲されたもので、輝かしくダイナミックな歌である。後半からはピアノ伴奏も6連符のリズムへと変化し、いっそう劇的に奏される。最後にはテノールのHi C。子供たちの魂の叫びのように感じられる。小さな子が見た燃える夕焼けや、円い大きな月、きらきらと輝く「金の」星。幼い子の純真な眼に映る宇宙の神秘は感動をもって心に突き刺さったことだろう。最後まで自然への畏敬の念が感じられる。加えて編曲者である三善晃の幼少期は戦時中だった。幼い頃の友を戦争で奪われたという。そんな彼が夕焼小焼と向き合い少年時代を想ったとき、耐え難い悲しみ、悔しさがあつたことは間違いない。彼の悲痛な思いが、やはり魂の叫びとなってこの編曲を劇的たらしめていると思えてならない。

曲ごとに移る季節の色彩を楽しむと共に、いつも周りにある色々な自然に想い寄せながらお聴き頂きたい。

(文責：慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団2年 山田 和司)

□ 歌 詞

朧月夜

(文部省唱歌・高野辰之作詞)

菜の花畠に 入日薄れ、
見わたす山の端 霞ふかし。
春風そよぶく 空を見れば、
夕月かかりて におい淡し。

里わの火影も、森の色も、
田中の小路を たどる人も、
蛙のなくねも、かねの音も、
さながら霞める 朧月夜。

茶摘

(文部省唱歌・作者不詳)

夏も近づく八十八夜、
野にも山にも若葉が茂る。
「あれに見えるは茶摘みじゃないか。
あかねだすきに菅の笠。」

日和つづきの今日此頃を
心のどかに摘みつつ歌う。
「摘めよ摘め摘め摘まねばならぬ。
摘まにゃ日本の茶にならぬ。」

紅葉

(文部省唱歌・高野辰之作詞)

秋の夕日に照る山紅葉、
濃いも薄いも数ある中に、
松をいろどる楓や鳶は
山のふもとの裾模様。

溪の流に散り浮く紅葉、
波にゆられて離れて寄って、
赤や黄色の色様々に、
水の上にも織る錦。

雪

(文部省唱歌・高野辰之作詞)

雪やこんこ霰やこんこ。
降っては降ってはすんずん積る。
山も野原も綿帽子かぶり、
枯木残らず花が咲く。

雪やこんこ霰やこんこ。
降っても降ってもまだ降りやまぬ。
犬は喜び庭駆けまわり、
猫は火燵で丸くなる。

夕焼小焼

(中村雨紅作詞)

夕焼小焼で 日が暮れて
山のお寺の 鐘がなる
お手々つないで 皆かえろ
鳥と一緒に 帰りましょう

子供が帰った 後からは
円い大きな お月さま
小鳥が夢を 見る頃は
空にはきらきら 金の星



□ 指揮者 広瀬 康夫 (関西学院グリークラブ)

神戸に生まれる。1987年より関西学院に勤務し、グリークラブをはじめ多くの合唱団の指導にあたるとともに、全日本合唱連盟などの講師・審査員を務める。またカルテットやソリストとしても活動する。1999年、BHS(Barbershop Harmony Society)に登録し、日本でのバーバーショップハーモニーの普及に努める。

故北村協一氏に指揮法を、大久保昭男氏、井上和世氏に声楽を、Egisto Matteucci氏に教会音楽および合唱指導を師事。現在、関西学院グリークラブ技術顧問、新月会指揮者・副会長、コール・セコインデ常任指揮者、金沢メンネルコール客演指揮者、九州フレッシュメンコア技術顧問、グリークラブ香川技術顧問、日本男声合唱協会(JAMCA)個人会員、平成指揮者十人の会同人、BHS(本部アメリカ)会員



□ 指揮者 松原 千振 (早稲田大学グリークラブ)

長野県出身。国立音楽大学及びシベリウスアカデミーに学び、マスタークラス修了。

エーリック・エーリックソン、ダンウーロフ・ステーナルンドに師事。

1978年からフィンランドで活動。ヘルシンキ大学男声合唱団(YL)、フィンランド放送室内合唱団、タピオラ合唱団等を指揮。

1987年から欧米のプロ合唱団に常時客演指揮してきた。同年からフィンランドで発見された単旋律聖歌の復元とその演奏に関わっている。

1997年東京混声合唱団常任指揮者、2013年に正指揮者に就任している。

2013年「ジャン・シベリウス 交響曲でたどる生涯」(アルテスパブリッシングから上梓。)



□ 指揮者 伊東 恵司 (同志社グリークラブ)

京都市在住。児童・混声・女声・男声…あらゆる形式・ジャンルの合唱指導を行い、全日本合唱コンクール・宝塚国際室内合唱コンクール等でグランプリ、金賞、特別賞を多数受賞。世界合唱シンポジウムでは2度にわたり(ソウル・バルセロナ)招待演奏団体に選出される等、海外公演も多数。現在は全国各地で講習会講師や審査員を務めるだけでなく「アルティ声楽アンサンブルフェスティバル(京都)」「コーラスめっせ(大阪)」の主宰や「世代間を結ぶわらべうたプロジェクト」「小中高の音楽教師向け講習会」の企画等、合唱の広がりを目指した活動で各方面の注目を集めている。日本合唱指揮者協会理事、全日本合唱連盟子どもコーラス委員。ブレーン株式会社より「合唱のイントロダクション」、カワイ出版より「スチューデントソングブック(1・2)」「合唱エクササイズ(運営編・育成編)」を上梓。また、「みなぎみのり」のペンネームで作詞活動を展開。自ら創作と構成を担当する合唱物語という形態も含めて、松下耕、千原英喜、信長貴富、相澤直人…等の作曲家により多数の曲が作られている。



□ 指揮者 佐藤 正浩 (慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団・四大学合同ステージ)

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。ジュリアード音楽院ピアノ伴奏科修士課程修了。

1992年、サンフランシスコ・オペラのオーディションに合格、専属ピアニストとして研鑽を積む。1995年、ケント・ナガノ氏の招きでリヨン国立歌劇場の首席コレペティートルに就任し、2つの世界初演を含む20を超える作品の公演に参加し、多くの指揮者、歌手から絶大な信頼を得る。以降、ナガノ氏、ゲルギエフ氏、チョン・ミンファン氏他のアシスタントとして、パリ・シャトレ座、ラヴェンナ音楽祭、ウィーン芸術週間などで活躍。同時に指揮者として活動を開始し1999年、イギリス・ダーティントン音楽祭で「イドメネオ」を指揮しデビュー。翌2000年には再び同音楽祭に招かれ「ナクソス島のアリアドネ」を指揮したほか、新国立劇場で「オルフェオとエウリディーチェ」を指揮し日本デビューを果たし、一躍脚光を浴びる。

その後も日生劇場「カルメン」、新国立劇場「トスカ」、藤原歌劇団「愛の妙薬」、東京オペラプロデュース「放蕩者のなりゆき」、いずみホール「ランスへの旅」等を指揮し注目を集める。2008年から和光市にてヴェルディ・プロジェクトを開始し、第一作目の「ナブッコ」で三菱 UFJ 信託音楽賞を受賞、東京室内歌劇場「人間の声」「マノンの肖像」、ひろしまオペラルネッサンス「カルメル会修道女の対話」「カルメン」、東京芸術劇場「ドン・カルロス」(仏語版日本初演)「サムソンとデリラ」など、フランスオペラの指揮に対する評価は高い。

2012年、白虎隊をテーマにしたオペラ「白虎」(宮本益光台本/加藤昌則作曲)を会津若松で初演し佐川吉男音楽賞を受賞した。この作品は、戊辰戦争終結150年を記念し来年再演される予定である。一昨年は藤原歌劇団「仮面舞踏会」を、昨年は同団「椿姫」をそして今年は「セビリアの理髪師」を指揮し大成功を収める。2018年には「真珠採り」を東京芸術劇場で上演する予定。

これまでに読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、大阪センチュリー交響楽団、広島交響楽団等を指揮。また、自身の主催するオーケストラ、Orchestre "Les Champs-Lyrics"、The Opera Band を設立し活動している。愛知県立芸術大学、昭和音楽大学大学院講師。



□ ピアニスト 前田 勝則 (慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団・四大学合同ステージ)

山口県に生まれる。1998年東京学芸大学教育学部芸術課程音楽専攻卒業。

2001年東京芸術大学大学院音楽研究科修了、修了時に NTT ドコモ奨学金を授与される。ピティナ・ピアノコンペティションデュオ部門特級最優秀賞受賞をはじめとして、多摩フレッシュ音楽コンクール、日本室内楽コンクール、吹田音楽コンクール、大曲新人音楽祭コンクール、かずさアカデミア音楽コンクールなどに上位入賞。また、NHK-FM「土曜リサイタル」、東京文化会館新進音楽家デビューコンサート、ABC フレッシュ・コンサート、日演連推薦/新人演奏会など、多くの演奏会に出演。大阪フィルハーモニー交響楽団、広島交響楽団、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉と共演。

現在、ソロ、室内楽、及び声楽・合唱のピアニストとして活発な演奏活動を繰り広げている。



□ ピアニスト 細見真理子 (四大学合同ステージ)

兵庫県立神戸高等学校卒業。在学中は合唱部に所属し、ピアノ伴奏を務める。大阪教育大学専攻科ピアノ科修了。関西学院グリークラブ、淀川混声合唱団、神戸女子大学コーラス部、コール・アルファ、他様々な合唱団の伴奏者として活動。また千原英喜「銀河の序」、信長貴富「くちびるに歌を（混声版）」「讃歌」、北川昇「うたふやうにゆつくりと……」「やさしさとさびしさの天使（混声版）」、マーラー「さすらう若人の歌（大竹くみ編曲）」、横山智昭「空を見上げて」、佐藤賢太郎「笑顔の魔法」「A Boy's Inspiration」等の委嘱初演ステージをはじめ、関西学生混声合唱連盟演奏会、東西四大学合唱演奏会他多くのJoint演奏会の合同ステージに出演。ピアノを宮本弘子、瓜原一勲の各氏に師事。大阪信愛女学院短期大学、神戸女子大学非常勤講師。



□ ヴォイストレーナー 小貫 岩夫 (慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団・関西学院グリークラブ)

同志社大学及び大阪音楽大学卒業。文化庁オペラ研修所第11期修了。数々のコンクールで優勝、入選する。95年『魔笛』タミーノ役に抜擢され、テオ・アダムらと共演しデビュー。翌年にはケムニッツ市立歌劇場（ドイツ）に同役で招聘出演し好評を得る。98年より文化庁派遣でミラノへ留学。2000年新国立劇場デビュー以来、二期会を中心に『鳴神』（市川團十郎演出）、『コジ・ファン・トゥッテ』（宮本亜門演出、文化庁芸術祭大賞受賞）などで活躍。また二期会公演『魔笛』（実相寺昭雄演出）には07年、10年と2回連続タミーノ役で出演し喝采を浴びた。近年は11年佐渡裕指揮『こうもり』アルフレード役のほか、13年から3年連続、二期会のオペレッタに主役で出演し演技力を発揮している。コンサートでは2011年、13年、15年にウィーンオペラ舞踏会管弦楽団のニューイヤーコンサートのソリストとして舞台を飾った。2013年、天皇后両陛下御親覧の舞踏会で演奏しお言葉を賜る。合唱団の指導者としては関西学院グリークラブ、慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団、立教大学グリークラブ男声、同志社グリークラブOBシンガーズ（DOBS）、東京アカデミー合唱団、しなの合唱団などのヴォイストレーナー、また大阪外国語大学グリークラブOB（東京）の指揮者として活躍している。二期会会員。二期会オペラ研修所講師。

2010年、カメラータ・トウキョウから『いつも微笑みを～オペレッタ名曲集』をリリース。

2015年、FlyingDogよりリリースされたアルバム『ハナハサク』には、作曲者菅野よう子と共演した「花は咲く～2015」が収められている。

本年7月には2ndアルバム『ふたりのしらべ』をリリース予定。



□ ヴォイストレーナー 和田 ひでき (早稲田大学グリークラブ)

早稲田大学第一文学部哲学科卒。在学中はグリークラブに所属、パートリーダーを務めた。日本オペラ振興会育成部修了。オペラ出演は既に60作品を越え、最近の主な出演は、千住明「万葉集」(指揮：大友直人) シューマン「ゲノフェーファ」(指揮：山下一史) など。昨年出演のカッチーニ「エウリディーチェ」(指揮：濱田芳通) は佐川吉男音楽賞を受賞した。俳優としても活躍しミュージカル「恋娘近松合戦!」「夏花火♥恋名残」「Into the woods」「Company」ストラヴィンスキー「兵士の物語」兵士役、映画「亭主調理法」亭主役などで好評を博し、古楽からミュージカルまで、幅広いジャンルで活躍している。また仏語の字幕翻訳スタッフとしても活動、MET ライブビューイング、パリオペラ座来日公演などを担当、翻訳作品は30を越える。近年は日本語訳詞も手掛け、ラヴェル「子供と魔法」の訳詞が小澤征爾指揮で上演された。その他仏語ディクショントレーナー、合唱指導など多彩な活動を展開している。2003年パリ留学。同年ガスコーニュ国際声楽コンクールオペラ部門ファイナリスト。<http://yaplog.jp/kadenteiikura>



□ ヴォイストレーナー 北村 敏則 (同志社グリークラブ)

京都市立芸術大学声楽専攻卒業。同大学院修了後ウィーン留学。音楽学部賞及び大学院賞を受賞。第2回日本シューベルト教会(J. S. G)国際歌曲コンクール第1位及び聴衆審査特別賞。第6回ボルツァーノ(北イタリア)歌曲コンクール第1位及びアダ・ヴェルバ賞受賞。第1回青山音楽賞。京都市芸術新人賞受賞。現在、京都市芸術大学準教授、関西二期会会員、日本シューベルト教会会員。



□ ヴォイストレーナー 石原 祐介 (同志社グリークラブ)

京都市立芸術大学、同大学院音楽研究科声楽専攻を卒業、修了。卒業時に音楽学部賞を受賞。第21回飯塚新人音楽コンクール第2位。世界合唱連合(IFCM)主催 World Youth Choir、World Chamber Choir 元日本代表メンバー。

声楽を灘井誠、山口はやとの各氏に、指揮法を青木邦雄氏に、合唱指揮を吉村 信良氏に師事。また、T. カリュステ氏、T. パヴロヴィッチ女史、E. オルトナー氏による合唱指揮マスタークラスを修了。現在、京都市立芸術大学非常勤講師。JCDA 日本合唱指揮者協会会員。アンサンブル・ガウディウム主宰。京都バッハ合唱団団員。



関西学院グリークラブ

Kwansei Gakuin Glee Club



■顧問：嶺重 淑
■技術顧問：広瀬康夫

■運営顧問：矢橋 洋
■運営顧問補佐：中村 翔
■ヴォイストレーナー：小貫岩夫

関西学院グリークラブは、関西学院創立から10年後の1899(明治32)年、当時原田の森(現在の王子動物園の辺り)にあったキャンパスで誕生しました。以来現在まで118年間にわたり、活動を続けている日本でもっとも長い歴史を持つ男声合唱団です。

コンクールにおいては、1963年までに戦前の競演会を含め全国大会に18回出場、招待演奏2回など輝かしい実績を残しています。2006年より出場を再開し、2016年度までの11年間で全国大会に10回出場、2010年度より7年連続金賞受賞、部門最優秀賞を3回受賞するなど、常に日本の合唱界をリードし続けてきました。

海外では、1965年にアメリカ(ニューヨーク・リンカーンセンター)で行われた第1回世界大学合唱祭に出場し世界的な評価を得たほか、パリのノートルダム寺院、ケルン大聖堂、ウィーン楽友協会大ホールなどでも演奏を行っています。1965年には兵庫県文化賞、西宮市文化功労賞を受賞。音楽家の山田耕筰、林雄一郎、北村協一をはじめ、経済界にも多くの著名な人材を輩出しています。

2017年現在、80名を超える部員が所属。時代と共に学生の気質は変化を見せる一方、代々受け継がれてきた「メンタルハーモニー」をクラブモットーとして掲げ、メンバー一人ひとりの精神的調和を目指すことで生まれる独自のハーモニー「関学トーン」は、多くの人々から愛されています。その精神を柱に、限られた時間の中で一つ一つの演奏会に真摯に取り組み、そこに生まれるグッドウィル(暖簾)の歴史に新しい1ページを作り上げるべく、不断の努力を重ねています。

現在、東西四大学合唱演奏会、関西学院グリークラブフェスティバル、全日本合唱コンクール、そして一年を総括する関西学院グリークラブリサイタルを中心に、様々な活動を精力的に展開しています。

TOP TENOR

- 石川 剛史 (理 4) 関西学院
- 川島 圭司 (社 4) 五条
- ☆嶋崎 裕基 (文 4) 関西学院
- 生嶋翔太郎 (法 3) 淳心学院
- 石本 康輔 (経 3) 関西学院
- 大谷 龍之 (文 3) 須磨東
- 桑本 貴之 (文 3) 関西学院
- 齋藤 匠 (神 3) 横須賀学院
- 南部 直樹 (経 3) 啓明学院
- 三根 智也 (教 3) 関西学院
- 今村 駿平 (文 2) 松山東
- 上本 樹 (文 2) 関西学院
- 阪本 知弥 (教 2) 関西学院
- 高安 亮太 (文 2) 関西学院
- 内藤 敬太 (社 2) 清風
- 野田 脩介 (理 2) 関西学院
- 八幡 佳介 (経 2) 米子東
- 前田 悠輔 (教 1) 関西学院

SECOND TENOR

- 小竹 波輝 (経 4) 早稲田大学系属早稲田
大学音楽学部声楽科
- 金井 秀道 (社 4) 早稲田大学系属早稲田
大学音楽学部声楽科
- 早野 貴大 (文 4) 豊中
- 村瀬 祐貴 (社 4) 旭
- 若松 佑輔 (文 4) 東筑
- 川合 悠介 (理 3) 関西学院
- 小西 隆弘 (総 3) 函館ラ・サール
- 近藤 匠 (理 3) 聖心学園
- 立野 雅也 (商 3) 富山
- 中川 三嘉 (文 3) 近江兄弟社
- 前谷 泰大 (社 3) 亀岡
- 吉元 良介 (経 3) 西宮
- 稲垣 大志 (経 2) 関西学院
- 大谷 俊太 (理 2) 関西学院
- 秦 芳樹 (商 2) 関西学院
- 福田 幸大 (経 2) 米子東
- 船登 大輝 (社 2) 嵯峨野
- 前原 明拓 (文 2) 宝塚西
- 東 暹介 (文 1) 関西学院
- 寺嶋 理裕 (商 1) 八千代松陰

BARITONE

- 林 賢志 (経 4) 広島学院
- ◎村上 拓也 (文 4) 西城陽
- 森脇 稜介 (人 4) 三田学園
- 矢野 陸斗 (社 4) 関西学院
- 山本 怜央 (理 4) 御影
- 福川 和希 (経 3) 伊川谷北
- 岡田 峻典 (教 3) 崇徳
- 關橋 佳毅 (経 3) 西脇
- 栗原 優太 (社 3) 育英
- 田中 智大 (文 3) 明星
- 中川 泰佑 (商 3) 関西学院
- 吉田 拓海 (経 3) 関西学院
- 石川 龍太 (社 2) 敬和学園
- 野田純之介 (理 2) 関西学院
- 畑堀 克仁 (経 2) 関西学院
- 新 広大 (法 1) 大洲
- 金田 昌大 (神 1) 自由ヶ丘
- 林口 玲也 (文 1) 関西学院

BASS

- 伊藤 将也 (経 4) 鳴尾
- 井上 巧 (理 4) 東明館
- 笠原 大輝 (経 4) 関西大倉
- ◎川口健太郎 (文 4) 寝屋川
- 杉原 慶彦 (経 3) 松江北
- 谷川 泰基 (社 3) 池田
- 津田 祥吾 (商 3) 西宮東
- 西本 嵩 (教 3) 関西学院
- 松本 尚希 (社 3) 上智福岡
- 村上 勝顯 (社 3) 関西学院
- 久保 直輝 (文 2) 関西学院
- 林 浩平 (経 2) 仁川学院
- 松本 陸 (経 2) 駒込
- 山田 航大 (商 2) 関西学院
- 徳島 良亮 (経 1) 関西学院

☆：部長 ◎：指揮者
□：人事 ○：パートリーダー

専属女子 MANAGER

- 有田香菜子 (文 4) 夢野台
- 幾島 佳世 (総 4) 千里
- 北城華代子 (人 4) 明治学園
- 森 香苗 (社 4) 金蘭千里
- 稲田 成紗 (文 3) 梅光学院

- 岩崎 寛子 (文 3) 姫路西
- 坂根 遥 (文 3) 宮津
- 杉本 愛美 (文 3) 東筑
- 辻本 黎 (社 3) 智弁学院
- 豊田 千尋 (文 3) 京都共栄学園

- 木下史季子 (文 2) 西南女学院
- 佐藤 美優 (社 2) 西南女学院
- 塩谷 志織 (教 2) 帝塚山学院
- 清水 梨那 (社 2) 帝塚山学院
- 竹村 朱莉 (社 2) 神戸龍谷

- 鳥越 みき (社 2) 長田
- 兵頭ひより (教 2) 宇和島南
- 松本 晴香 (文 2) 加古川東



全員変人

究極のダイナミック・エンターテイメント!
関西学院グリークラブ—総勢 100 名以上もの部員が所属する団体。

自分の欲望を満たすためならば、手段を選ばず行動に出る。彼らが単位を賭け、手にしたいのは【メンタルハーモニー】ただ、それだけだ。禁断の手を使い、年下に手を出しつられた男。部員を裏切り、コラ画像作成に勤しむ男。そして、無駄に名言を残し、部員を混乱させる男——。

学生指揮者として部員をまとめ上げる、村上拓也監督最新作「アウト KG」。富士山の麓でかつてないメンタルハーモニーが繰り広げられる、強烈かつ衝撃的な“究極のダイナミック・エンターテイメント”



ふられてなんぼ

Baritone: 矢野



Second: 若松



有能: 川島



すまん、

部長: 嶋崎



名言が止まらねえ

指揮者: 村上



Top: 石川



Bass: 川口

6月25日(日)
ロードショー

すみだトリフォニーホール
 03(5608)5400

アウトKG
 OUTKG



早稲田大学グリークラブ

Waseda University Glee Club



■会 長：伊東一郎

■ヴォイストレーナー：和田ひでき

早稲田大学グリークラブは早稲田大学音楽会の声楽部として活動を開始し、1907年（明治40年）に、早稲田大学の創立25周年を記念して作られた校歌、通称『都の西北』と共に、初代グリークラブが結成されました。

創立110年目を迎える今日に至るまで早稲田大学と共に歴史を歩んできた伝統ある合唱団であり、作曲家の磯部俣、声楽家の岡村喬生、コーラスグループのボニージャックスなど、音楽会の第一線で活躍する数多くのOBを輩出してきました。

現在は100名ほどの団員が所属しており、春夏秋冬、年4回の演奏会を中心に、大学公式行事における演奏や、国内・国外への演奏旅行、小・中・高校における音楽観賞会への出演、企業からの依頼演奏など、幅広い音楽活動を行っています。

また、去年度1月には名門ハーバード大学グリークラブとのジョイントコンサートを行い、互いの国の音楽を通じて同クラブの団員と交流を深めました。

国内外のオリジナル男声合唱曲はもちろんのこと、学歌から民謡、ポピュラー音楽まで幅広いジャンルの曲を演奏しております。また新曲の委嘱活動にも意欲的であり、最近では100周年記念の際にミュージシャンである小田和正氏、第60回定期演奏会では「花は咲く」の作曲で有名な菅野よう子氏、第62回定期演奏会では悪魔教布教団体「聖飢魔II」の主宰であるデーモン閣下、第64回定期演奏会では田中達也氏らの委嘱初演をさせていただきました。

常日頃、ただの合唱団ではない、最高のエンターティメント集団と自負する我々早稲田大学グリークラブではございますが、今宵のステージでは一転して高度なハーモニーの合唱をお送りいたします。「男なら歌え 早稲田を歌え」の言葉の下に集まった男たちの圧倒的なサウンドが自慢です、どうぞお楽しみください。

TOP TENOR

- ☆ 後藤 貴央 (法 4) 長野県諏訪清陵
- 高木俊一郎 (文構 4) 開智中高一貫
- ◎ 中島龍之介 (文構 4) 開智未来
- 中田亮太郎 (基理 4) 渋谷教育学園渋谷
- 西岡 遼 (法 4) 福井県立藤島
- 西帯野貴紀 (商 4) 延岡学園尚学館
- 上本孝志郎 (先理 3) 神奈川県立横浜平沼
- 小林 侑介 (文 3) 市川
- 橋本 哲也 (教育 3) 埼玉県立大宮
- 今尾 一樹 (先理 2) 東海
- 小池 功託 (人科 2) 埼玉県立熊谷
- 高橋 初文 (社学 2) 香川県立丸亀
- 中西 葵 (法 2) 穎明館

SECOND TENOR

- 石川 裕規 (創理 4) 暁
- 大海 修平 (教育 4) 世田谷学園
- 仲川 裕麻 (文構 4) 神奈川県立川和
- 藤井 大輔 (商 4) 攻玉社
- 山田 圭悟 (文 4) 桐朋
- 鴨志田優人 (教育 3) 水城
- 川村 航希 (先理 3) 駒場東邦
- 藤田 稔史 (文 3) 都立八王子東
- 吉川 雄基 (法 3) 埼玉県立熊谷
- 井口 純太 (文 2) 金光八尾
- 神頭 和希 (社学 2) 富山県立富山南
- 野口 朔 (政経 2) 都立武蔵
- 森田遼太郎 (創理 2) 成城

BARITONE

- 青木 南 (創理 4) 埼玉県立熊谷
- 亀田 康平 (創理 4) 東邦大学附属東邦
- 桐原 弘亘 (文 4) 暁星
- 櫻町 潤 (商 4) さいたま市立浦和
- 前田 直樹 (政経 3) 海城
- 遠田 雄大 (先理 2) 茨城県立水戸第一
- 北川 喜槻 (政経 2) 滋城県立守山
- 西條 快 (教育 2) 青森県立八戸
- 萩原 颯 (文構 2) 巣鴨
- 増田 旭晃 (基理 2) 日本大学鶴ヶ丘
- 横野奏士郎 (文構 2) 北海道旭川東

BASS

- 新村 拓生 (文 4) 中央学院
- 田上 裕貴 (文構 4) 千葉県立東葛飾
- 中山 景斗 (先理 4) 栃木県立宇都宮
- 長谷川正己 (政経 4) 埼玉県立浦和
- 水上 傑大 (文構 4) 北海道旭川東
- 宮路 将人 (創理 4) 埼玉県立川越
- 岡村 恒平 (文構 3) 埼玉県立熊谷
- 田中 涉 (基理 3) 早稲田大学本庄
- 藤本 卓弘 (法 3) 茨城県立水戸第一
- 渡邊健太郎 (法 3) 本郷
- 岩永康太郎 (文構 2) 池田学園池田
- 内山 和哉 (基理 2) 武蔵
- 齋藤 光 (教育 2) 大智学園
- 澤田 和希 (商 2) 神奈川県立横浜緑ヶ丘
- 柳沼 篤大 (政経 2) 早稲田
- 山崎 隼弥 (社学 2) 川越東

☆：責任者 ◎：学生指揮者 ○：パートリーダー

科目名	総合講座「グリメンと海」							
担当者名	早稲田大学グリークラブ 練習系(学生指揮者、各パートリーダー)							
音楽学部	男声合唱学科	4単位	春学期	水、土	5～6限	1年以上	選択必修	基礎

授業概要

男声合唱界では、古くから「海」をテーマにした作品が数多く作られ、長年にわたって歌い継がれている。命を懸けて荒波に挑んでいく男たち、そして合唱に命を懸ける男たち。海の男たちも、歌う男たちも、どこか似た熱さを持っている。何がそんなにまでも男たちを惹きつけるのだろうか。

この講義では、毎回「海」をテーマにした男声合唱作品を取り上げ、水曜にパート練習、土曜にアンサンブルを行い、実際に歌うことで、それらの曲を味わいながら、各作品が男声合唱界においてどのような意味を持つ作品なのか、男声合唱界にどのような影響を与えたのか、考えていきたい。

可能であれば、著名な指導者、作曲家の先生をお呼びして解説していただく回を設けたい。具体的には、早稲田大学グリークラブに関係の深い作品や、関係の深い作曲家の作品を扱う回を予定している。

授業の到達目標

「海」をテーマにした男声合唱作品に触れ、その醍醐味を味わいつつ、それらの作品が男声合唱に与えた影響について理解する。また、取り上げた作品の中から数曲を歌いこなせるようになる。

授業計画

- 第1週 ガイダンス(パート分け・準備体操・発声練習など)
- 第2週 宮城県民謡「斎太郎節」(編曲：竹花秀昭)
男声合唱のための「大漁唄い込み(斎太郎節変奏曲)」(作曲：竹花秀昭)
- 第3週 男声合唱組曲「航海詩集」(作曲：多田武彦)
- 第4週 男声合唱組曲「海鳥の詩」(作曲：廣瀬量平)
- 第5週 海外の「海」作品①…Sea Chanty(編曲：Alice Parker, Robert Shaw)
- 第6週 無伴奏男声合唱曲「海のあなたの」(作曲：上田真樹)
- 第7週 男声合唱組曲「ティオの夜の旅」より「海神」(作曲：木下牧子)
やなせたかしの詩による10のメルヘン「愛する歌」より「海と涙と私と」(作曲：木下牧子)
- 第8週 男声合唱組曲「北斗の海」(作曲：多田武彦)
- 第9週 男声合唱組曲「海の詩」(作曲：廣瀬量平)
- 第10週 海外の「海」作品②…「太古の海の歌」(作曲：V. Tormis)、「海の歌」(作曲：B. Smetana)
- 第11週 男声合唱組曲「海」(作曲：高田三郎)
- 第12週 男声合唱組曲「海の構図」(作曲：中田喜直)
- 第13週 男声合唱曲「ゆうべ、海を見た」(作曲：荻久保和明)
- 第14週 男声合唱組曲「達治と濤聲」(作曲：多田武彦)
- 第15週 まとめ(アンサンブル)

成績評価

- グループワーク 70% 最終週には、2～3グループに分かれ、講義で取り上げた曲の中から指定した曲をアンサンブルしてもらい、指揮は学生指揮者が担当する。
- 平常点 30% 最終回に、本講義を振り返って簡単にレビューシートを提出してもらい、他に、授業期間中に開催される演奏会(東京六大学合唱連盟定期演奏会や東西四大学合唱演奏会など)を聴きに行き、簡単なレポートで報告してもらい、加点対象となる。また最終週のアンサンブルの際にソロを担当した場合も加点対象となる。

※この講義はフィクションです。実際にこのような講義は開講されていません。



同志社グリークラブ
Doshisha Glee Club

■顧問：岸 基史
■技術顧問：伊東恵司

■ヴォイストレーナー：北村敏則
石原祐介

同志社グリークラブは1904年に創立された同志社大学の男声合唱団です。先輩方をはじめ多くの関係者のご尽力により、このクラブは113年間、合唱界をリードする存在として常に輝いてきました。創立当時はまだ「同志社グリークラブ」という名称は使っておらず、「クワイア」、「ダビデ・クワイア」と称しておりましたが、1911年に故片桐哲氏（後の同志社女子大学第2代学長）を名付け親として、現在の名称で呼ばれるようになりました。その時に歌われていたのが賛美歌317番「はなよりもめでにし」であり、これが同志社グリークラブの名のもとに歌われた最初の曲とされています。それ以来音楽への情熱を貫き、「椰子の実」の作曲者として知られる故大中興二氏、音楽評論家の日下部吉彦氏、合唱指揮者の浅井敬壹氏など数多くの優れた音楽家を輩出して参りました。

2017年現在、定期演奏会、東西四大学合唱演奏会、全同志社メサイア演奏会、全日本合唱コンクール、国内外への演奏旅行、テレビ出演等、多岐にわたって活動しています。このような幅広い活動ができますのも、私達の活躍に期待を寄せてくださる多くの方々のご支援の賜物にほかなりません。私達は今後とも、100年以上もの間大切に受け継がれて参りました「聴衆と一体となった音楽」という同志社グリークラブの精神を失うことなく、常に挑戦する合唱団として、より一層邁進して参ります。

TOP TENOR

- 加納 雄太 (法 4)山口
- 小窪 圭知 (生命4)東北学院
- 国本 健吾 (商 4)西城陽
- 竹岡 大志 (文 4)奈良
- 遠藤 優己 (商 3)花園
- 片岡 良介 (理工3)関西
- 森 一就 (社会3)成城
- 佐々木周平 (文 3)東福岡
- 阿部 亮一 (法 2)岡山朝日
- 濱田 尚晃 (社会2)東大谷
- 川崎 克之 (社会2)磐田西
- 西村 俊亮 (理工2)近江兄弟社
- 高橋 侑資 (理工2)豊田西
- 吉本 泰 (経済1)高崎

SECOND TENOR

- 林 隆徳 (理工4)可児
- 平松総一郎 (文 4)北千里
- 市来 颯斗 (理工4)天理
- 民秋 駿 (理工3)光泉
- 脇岡 碧 (経済3)基町
- ◎八木 和貴 (理工3)自由ヶ丘
- 犬丸 和音 (社会2)初芝富田林
- 村津 耕平 (理工2)開明
- 西堂 哲史 (理工2)須磨学園
- 佐藤 宏樹 (法 2)清風
- 粕谷 大雅 (神 1)敬和学園

BARITONE

- 枇榔 秀仁 (法 4)神戸龍谷
- ☆○服部 祥亮 (理工4)一宮興道
- 堀江 恭平 (理工4)城東
- 松本 英介 (理工4)五条
- 千代 恵大 (経済3)洛星
- 宮本 真生 (理工3)東大寺学園
- 鈴木 俊政 (理工3)山形東
- 井出 輝 (経済2)熊谷
- 磯部隆之介 (理工2)浜松学芸
- 大西 紘司 (政策2)西城陽
- 藪谷 和史 (理工2)滝
- 小倉 寛大 (文 1)所沢北

BASS

- 平佐 通 (法 4)桜塚
- 村井 夏生 (文情4)北陸学院
- 亀崎 裕貴 (経済3)八代
- 奥山 達矢 (法 3)熊谷
- 矢川 太智 (文 3)加古川南
- 細田 純也 (社会2)魚津
- 白井 直樹 (理工2)大野

☆：幹事長 ◎：学生指揮者 ○：パートリーダー

七つの 大罪 Septem peccata mortalia

Beelzebub
暴食
S.Sasaki



always 受胎告知。
や〇い軒の炊飯器は彼のモノ

Leviathan
嫉妬
K.Ohnishi



・・・待ち人来ず。
イケメン清純派アイドル

Satanas
憤怒
Y.Kamezaki



わうわう

Lucifer
傲慢
T.Suzuki



ドイツ民謡をこよなく愛し、
ドイツ語単位をとことん落とす

Asmodeus
色欲
K.Herie



性のマルチプレイヤー
俺と一緒に住めば家賃半分だよ

Mammon
強欲
K.Yabutani



名古屋だろうが東京だろうが飛
び回るヲタク。練習にはさて(切実)

Belphegor
怠惰
S.Biro



講義中だろうと会議中であろう
とシャドバをする良い大人



慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団
Keio University Wagner Society Male Choir

■部 長：塩澤修平
■顧問：福岡正夫
神谷傳造
■正指揮者：佐藤正浩
■ヴォイストレーナー：小貫岩夫

ワグネル・ソサイエティーは、1901年に創立された慶應義塾の音楽団体です。その名称は、近代楽壇を席卷したりヒャルト・ワーグナーを敬慕してつけられたものであり、音楽学校以外ではわが国初の学生音楽団体として発足しました。オーケストラ、女声合唱団と並びその一角を占めるのが、私ども慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団です。

アンサンブルにおいて一音の妥協も許さないという音楽に対する真摯な姿勢は、創立以来今日に至るまで脈々と受け継がれてきました。新入団員の多くは合唱未経験者ですが、こうした日々の努力と音楽を素朴に楽しもうという想いが、より高水準な音楽の追求を可能にしていると言えます。また、当団は常に団員一人ひとりの自主性を尊重し、1年生から4年生までが時にぶつかりながらも支え合い、一丸となって音楽を作り上げています。

現在の活動は、東京六大学合唱連盟定期演奏会・東西四大学合唱演奏会・単独の定期演奏会を柱に、塾内行事への参加、国内外の演奏旅行、企業やホテルなどからの依頼を受けての演奏など多岐にわたっております。従来のレパートリーを引き継ぐと同時に、新しい曲の開拓にも意欲的に取り組んでいるのも特徴です。

今後も、弛まぬ努力で最高品質の音楽を追求していく当団の活躍にご期待ください。

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
○ 鳥羽 雅史 (経済4) 県立浦和 大西 将史 (経済3) 慶應義塾 亀井 慶輔 (法律3) 慶應義塾 鴨井 秀和 (商 3) 県立半田 小島 光 (医 3) 慶應志木 島田 莉生 (法律3) 慶應志木 春田 大智 (経済2) 開成 別府 洸太 (法律2) 慶應義塾 横山 悠河 (商 2) 八千代松陰 上林 由月 (経済1) 慶應志木 菊地 敬 (理工1) 県立福島 木暮 蒼真 (理工1) 慶應志木	大岡 充 (理工4) 開成 川島 圭弘 (文 4) 八王子東 ☆ 武山 陸 (経済4) 渋谷教育学園幕張 ◎ 平田 亮 (商 4) 北海道旭川東 松枝 知征 (理工4) 城北 ○ 渡邊 湊 (経済4) 慶應志木 金子 晃久 (法律3) 県立甲府南 関 将希 (理工3) 慶應志木 仲田 知史 (経済3) 慶應志木 野口 直杜 (商 3) 大宮開成 久保田悠介 (理工2) 県立緑岡 高橋 和輝 (理工2) 筑波大付属駒場 西田 風也 (文 2) 慶應志木 福田 侑生 (法律2) 慶應志木 香山 天俊 (文 1) 國學院久我山 南 祥悟 (経済1) 慶應志木	○ 安達 栄作 (経済4) 慶應志木 杉田 昂士 (経済4) 慶應志木 村上功太郎 (理工4) 甲陽学院 小山 直也 (法律3) 東大寺学園 名川 武志 (理工3) 渋谷教育学園渋谷 西村 正樹 (文 3) 県立浦和 高橋 歩 (商 2) 県立福島 高橋 麦 (理工2) 県立生田 兵藤 直哉 (文 2) 秀光中等教育学校 山田 和司 (文 2) 東京都市大付属 長井 和也 (経済1) 横浜翠嵐 西田 有輝 (商 1) 洛星	藤野 貴文 (文 4) 都立日比谷 ○ 横山 楓 (文 4) 慶應志木 渡邊 尊 (法律4) 明治学院 秋葉 忠孝 (法律3) 修道 飯野 周 (法律3) 慶應志木 上水流将吾 (理工3) 県立湘南 篠田 知希 (薬 3) 慶應志木 谷口 雄太 (文 3) 慶應志木 戸田 光祐 (経済3) 慶應志木 鶴岡航太郎 (薬 2) 渋谷教育学園幕張 山内 祥平 (理工2) 県立湘南 山室 尚貴 (法律2) 慶應義塾 菅沼 啓紀 (総合1) 県立熊谷

☆：責任者 ◎：学生指揮者 ○：パートリーダー

● 上下水道出版

東西四連特別号！来場者無料配布版

Wagnerian

わぐねりあん

No.142 | Owen

2017

6

“慶應ボーイ”

慶應義塾大学の男子学生。一般的には、お洒落でスマートとされている。慶應幼稚舎出身でなければ、慶應ボーイでないとする、原理主義者も存在する。

masafumi
kkkkk
りょーちゃん
Ruru
ウーフ



音楽も、見た目も、妥協は許されない。

— 技系142nd

慶應・関学・同志社・早稲田

ミスター東西四大学総選挙

カリスマ塾員寸評

「ダサい人がやるダサい音楽」

合唱人に愛され続けて、4ヶ月。
月刊ワグネリアン

異色のKOボーイアイドルユニット

技系142ndを大追跡！

メンバー5人のプロフィール初公開！

We are KOboys but we aren't popular with girls. We desperately want girlfriends.



関西学院グリークラブ

10/ 1(日)

第48回関西学院グリークラブフェスティバル
関西学院中央講堂

11/25(土)

第70回全日本合唱コンクール全国大会
東京芸術劇場コンサートホール

12/ 3 (日)

関西学院グリークラブ第26回高槻コンサート
高槻現代劇場中ホール

2018年2/11(日)

第86回関西学院グリークラブリサイタル
兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール

早稲田大学グリークラブ

12/3(日)

早稲田大学グリークラブ第65回定期演奏会
すみだトリフォニーホール 大ホール

2018年2/19(月)

第66回早稲田大学グリークラブ送別演奏会
杉並公会堂 大ホール

同志社グリークラブ

8/23(水)

三大学サマージョイントコンサート

【金城学院グリークラブ、立教大学グリークラブ(混声)】

寒梅館ハーディーホール

12/24(日)

第53回全同志社メサイア演奏会

京都コンサートホール大ホール

2018年1/14(日)

第113回定期演奏会

京都コンサートホール大ホール

慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団

10/9(月・祝)

第6回ワグネルガラ・コンサート(賛助出演)

練馬文化センター大ホール

11/11(土)

第142回定期演奏会

東京芸術劇場 コンサートホール

編集後記

この度はすみだトリフォニーホールまで足をお運びいただき、誠にありがとうございます。皆様の中には、今回初めて東西四連にご来場くださった方から、複数回ご来場下さっている方までいらっしゃると思います。毎年開催させていただいている当演奏会も、66回目を迎えました。今回も皆様に支持され続けてきた伝統的な音楽をはじめ、各団が趣向を凝らした単独ステージ、四大学でお届けする迫力満点の合同ステージをお届け致します。特色ある東西四大学の合唱を心行くまでお楽しみください。本稿が、皆様と演奏会をつなぐ一つのきっかけになればと思っております。

最後となりましたが、本日の演奏会のために多大なご指導、ご尽力を賜りました諸先生方、OB・OGの皆様、諸関係者の皆様、そして本日来場の皆様に厚く御礼申し上げます。

第66回東西四大学合唱連盟 理事長
慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団 藤野貴文

四連マネージャー



四連マネージャー 春 (開学：村瀬祐貴)

本日は演奏会にお越しいただき、誠にありがとうございます！
今年も東と西の四大学がこの場に集まり、共に力を合わせて演奏できる事を光栄に思います！

お越しいただいた皆様にとって本日の演奏会が最高のひと時になるように、全力で頑張ります！是非お楽しみください！

四連マネージャー 夏 (早稲田：西帯野貴紀)

1つの青春が騒々しく終わりを迎えようとしています。
あれだけ大変だった日々も、
過ぎた事件として片づけられていくのでしょうか。

東西四連は永久に煌めき続けます。
来年の京都開催、その翌年の東京開催、そしてそれ以降もずっと。

本日はご来場の程、誠にありがとうございます。
今後とも東西四連を宜しくお願い致します。



四連マネージャー 秋 (同志社：平松聡一郎)

本演奏会にお越しいただき、誠にありがとうございます。
最高の演奏ができるよう頑張らせていただきます。男声合唱
の迫力、ぜひ味わってってください！

四連マネージャー 冬 (慶應：藤野貴文)

ご来場誠にありがとうございます。我々東西四大学は、時には連携しながら、時には競い合いながら、本日に向けて日々の練習に打ち込んで参りました。各ステージどれも力作ばかりです。是非最後までお楽しみください。



来年の公演情報

第67回東西四大学合唱演奏会

日時 2018年6月24日(日)

場所 京都コンサートホール大ホール

第66回東西四大学合唱演奏会 プログラム

2017年6月25日(日)すみだトリフォニー 大ホール

平成29年6月25日発行

- 主 催：東西四大学合唱連盟
- 表紙絵：関西学院大学文化総部絵画部弦月会
福田柊斗・宮崎真堯
- 表紙・裏表紙デザイン：加藤光晴
- JASRAC 出 1705735-701
- 印 刷：株式会社 山川印刷所



第 66 回
東西四大学合唱演奏会

2017. 7. 1. sat. 15:00 開演 (14:30 開場)

国立オリンピック記念青少年総合センター・大ホール

小田急線「参宮橋駅」より徒歩7分

入場無料 全席自由 お問い合わせ・矢野冬馬 (理事長)

080-4411-4146

toma.wh@softbank.ne.jp

第56回関東大学合唱連盟定期演奏会

合同ステージ

混声合唱組曲「燕の歌」

詩・立原道造 曲・山下祐加

指揮：岡本俊久

ピアノ：浅海由紀子

横浜国立大学混声合唱団

平家物語による混声合唱のためのエチュード「那須与一」 曲・千原英喜

指揮：満田 洋光

東京理科大学グリークラブ

《委嘱初演》男声合唱とピアノのための「耳なし芳一」 原典・小泉八雲「怪談」より 曲・引野 裕亮

指揮：引野 裕亮 ピアノ：舩屋 菜穂子

東京医科歯科大学混声合唱団

混声合唱曲集「かなしみはあたらしい」 詩・谷川 俊太郎 曲・信長 貴富

指揮：北浦 康勢 ピアノ：中村 洗毅

埼玉大学合唱団

混声合唱組曲「明日へ続く道」 詩・星野 富弘 曲・千原英喜

指揮：富永 剛志 ピアノ：伊藤 文子

@kanrenchorus

<http://2017kanren.wixsite.com/kanren>

第21回 東西四大学 OB合唱連盟演奏会

関西学院大学・早稲田大学・同志社大学・慶應義塾大学



2017年7月23日(日)

開場：13：00 開演：13：45

昭和女子大学 人見記念講堂

主催：東西四大学OB合唱連盟

第21回 東西四大学OB合唱連盟演奏会

第1ステージ 新月会（関西学院）



男声合唱組曲 「アイヌのウポポ」

採譜：近藤 鏡二郎／作曲：清水 脩／指揮：広瀬 康夫

第2ステージ 稲門グリークラブ（早稲田）



男声合唱組曲 「北斗の海」

作詩：草野 心平／作曲：多田 武彦／指揮：岡本 俊久

第3ステージ クローバークラブ（同志社）



「Messe Solennelle～荘厳ミサ～」より

作曲：A. デュオパ／指揮：小久保 大輔

第4ステージ 慶應義塾ワグネル・ソサイエティーOB合唱団（慶應義塾）



男声合唱とピアノのための 「ジプシーの歌」

作曲：A. ドヴォルザーク／編曲：福永 陽一郎
指揮：佐藤 正浩／ピアノ：前田 勝則

第5ステージ 合同演奏

■チケット（全席指定）

S席：3,000円／A席：2,500円／B席：1,500円

■お申し込み・お問い合わせ

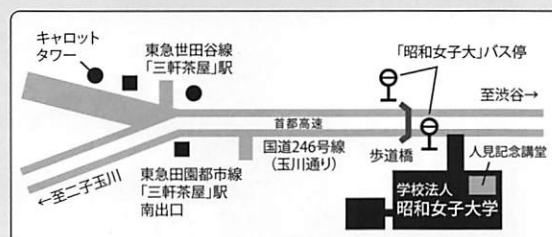
▶チケットぴあ（4月17日から申込み受付開始）

0570-02-9999（Pコード 328-311）<http://t.pia.jp>

▶慶應義塾ワグネル・ソサイエティーOB合唱団／玉木

Tel：045-433-3038 又は Mail：t-oaen@abelia.ocn.ne.jp

昭和女子大学 人見記念講堂 案内図



交通・東急田園都市線「三軒茶屋」駅南口A出口より徒歩7分
・東急世田谷線「三軒茶屋」駅より徒歩10分
・渋谷駅より三軒茶屋方面行き 東急バス・小田急バス利用
「昭和女子大学前」下車徒歩1分

※駐車場がありませんので、電車・バスをご利用下さい。

薨

◆信長貴富 作曲

無伴奏男声合唱のための小組曲

《見よ、かの蒼空に》

◆F.プーランク 作曲

《アツシジの聖フランチェスコの
4つの小さな祈り》

◆信長貴富 編曲

男声合唱とピアノのための

《時代》 ~ニューミュージック
と呼ばれた歌たち~

◆新実徳英 作曲

男声合唱とピアノのための

《祈りの虹》

第56回 薨演奏会

合唱 男声合唱団「薨」
早稲田大学高等学院グリークラブ
早稲田大学コール・フリーゲル
いらか会合唱団

指揮 清水昭
清水敬一
真下洋介
南方隼紀

ピアノ 小田裕之

あの真夏の日。いま、この夏の日。

めぐるめぐるよ 時代は巡る 別れと出逢いをくり返し

2017年 8月6日(日) 午後6時開演
(午後5時30分開場)

杉並公会堂大ホール

荻窪駅北口から徒歩7分 全自由席 ¥2,000

「薨」は、早稲田大学高等学院グリークラブ、早稲田大学コール・フリーゲル、OBを主体としたいらか会合唱団が1962年から毎夏開催している演奏会の名称であり、かつ3団体の総称です。早稲田の校歌「都の西北 早稲田の社に そびゆる 薨 は われらが母校」の1文字を頂戴しました。

【お問い合わせ】永田直人 (いらか会合唱団) ☎ 090-2741-1647
【後援】東京都合唱連盟 / JCDA 日本合唱指揮者協会

e-mail: irakachoir@gmail.com Web: <http://irakachoir.blogspot.jp>
【チケット】イープラス <http://eplus.jp/> にて取扱予定

合唱団 お江戸

コ ラ リ ア ー ズ

第16回演奏会

2017年8月12日(土) 開場 14:00 / 開演 15:00
S席 3,000円 / A席 2,000円 / B席 1,000円

文京シビックホール 大ホール

指揮: 山脇 卓也・村田 雅之 ピアノ: 須永 真美 打楽器: 目等 貴士 演奏: 合唱団お江戸コラリアーズ

祈りの海 一架空言語による男声合唱と打楽器のための一(仮) (委嘱初演) / The Four Faces of Love (初演) / 男声合唱とピアノのための
「感傷的な三つの奏鳴曲」より くらげの唄 / 落下傘 / STARS / Varjele, Jumala, Soasta (God protect us, Lord, from war) / 他

<http://oekora.net/>

合唱団 お江戸コラリアーズ

Choir Oedo Choraliers



20、30歳代の学生、社会人が中心となり男声合唱の新たな魅力を追い求め精神的に活動を続けている。伝統にとらわれず常に化する柔軟な合唱団として、年齢や出身大学にとらわれない雰囲気大切に、個人的な事情で参加できない団員には中期的・短期的な視点でフォローアップを実施する一方、発声の課題解決の為、ボイストレーナーとして大島博氏の指導を仰ぐ。「全員が主演」をモットーに、男声合唱の新たな響きとスタイルの獲得を目指し活動している。

・主な受賞歴・

第62(2009年)～69(2016年)回全日本合唱コンクール全国大会にて金賞を7回受賞(62～64回では日本放送協会賞を、65/66/68/69回では文部科学大臣賞を合わせて受賞)

16th
concert

合唱団お江戸コラリアーズ 第16回演奏会

【会場】 文京シビックホール 大ホール

【日程】 2017年8月12日(土)

【時間】 開場 14:00 / 開演 15:00

【料金】 全席指定

e+ イープラス
にて販売中

S席：3,000円
A席：2,000円
B席：1,000円



【問合せ】 info@oekora.net

【主催】 合唱団お江戸コラリアーズ

【後援】 東京都合唱連盟
全日本合唱指揮者協会
21世紀の合唱を考える会 合唱人集団「音楽樹」

【指揮】 山脇卓也、村田雅之

【ピアノ】 須永真美

【打楽器】 目等貴士

【演奏】 合唱団お江戸コラリアーズ

【プログラム】

・祈りの海
— 架空言語による男声合唱と打楽器のための— (仮) (委嘱初演)
作曲 / 三宅悠太



東京藝術大学作曲科をアカンサス音楽賞および同声会賞を受賞して卒業後、同大学院作曲専攻修了、音楽学部教育研究助手を3年間務める。在学中、奏楽堂日本歌曲コンクール第12回作曲部門(一般の部)第1位、ならびに第79回日本音楽コンクール作曲部門(オーケストラ作品)第1位、併せて岩谷賞(聴衆賞)受賞。管弦楽、室内楽、舞台音楽、合唱曲、音楽教材など多岐にわたる作編曲を手がけ、合唱分野では東京混声合唱団や harmonia ensemble などをはじめとする委嘱の他、2016年には第83回NHK全国学校音楽コンクール高等学校の部課題曲『次元』を作曲するなど注目を集めている。文教大学教育学部、聖心女子大学文学部、都立総合芸術高校音楽科、各非常勤講師。

・The Four Faces of Love (初演)
作曲 / John August Pamintuan

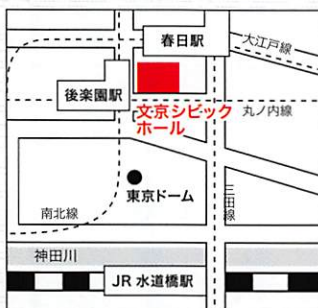
・男声合唱とピアノのための「感傷的な三つの奏鳴曲」より
くらげの唄 / 落下傘
作詩 / 金子光晴 作曲 / 高嶋みどり

<アラカルトステージ>

・STARS
作詞 / Sara Teasdale 作曲 / Eriks Ešenvalds

・Varjele, Jumala, Soasta (God protect us, Lord, from war)
作曲 / Veljo Tormis

他



【アクセス】
文京シビックホール 大ホール
〒112-0003
東京都文京区春日1-16-21

◎東京メトロ丸ノ内線・南北線
後楽園駅>【直結】

◎都営地下鉄三田線・大江戸線
春日駅(文京シビックセンター前)>
文京シビックセンター連絡通路【直結】

◎JR中央・総武線水道橋駅>
【徒歩約10分】



三大学 Summer Joint Concert

i. 立教大学グリークラブ

混声合唱

「愛歌曲集」より

【はじまり、はっか草、一詩人の最後の歌、リフレイン】

指揮：舛本祐己 ピアノ：久瀬葵

ii. 金城学院大学グリークラブ

女声三部合唱

「天使のハーモニー」より

【Amazing Grace、Voi che sapete、

Summertime、O mio babbino caro】

指揮：小原恒久 ピアノ：酒井志野

iii. 同志社グリークラブ

男声合唱組曲

「五つのラメント」

作詩：草野心平 作曲：廣瀬量平

指揮：八木和貴

iv. 三大学合同演奏

混声合唱組曲

「いつか虹の向こうへ」

作詩：みなづきみのり 作曲：三好真亜沙

指揮：伊東恵司 ピアノ：矢吹直美

2017年8月23日(水) 開場 18:30 開演 19:00

同志社大学 室町キャンパス 寒梅館ハーディーホール

入場料 1,000円

※未就学児の御入場はご遠慮願います

(京都市営地下鉄烏丸線『今出川』駅②番出口から北へ徒歩2分)



同志社グリークラブの公式ホームページ
【<http://www.gleeclub.jp/>】にて
チケットのご注文を承っております



同志社グリークラブ(主催)
金城学院大学グリークラブ
立教大学グリークラブ

亀崎裕貴
後藤朱里
中道満優子

Mail: gtz-af-44@softbank.ne.jp
Mail: kinjo.glee@gmail.com
Mail: joy-m.l-laulea-ho.aloha13@ezweb.ne.jp

東京アカデミー合唱団 第63回定期演奏会
秋山和慶指揮者就任50周年記念

J.S. Bach ミサ曲 短調

J.S. Bach
Messe in h-moll BWV 232

指揮：秋山 和慶

ソプラノ：半田 美和子
アルト：谷地 畝 晶子
テノール：鈴木 准
バス：多田 羅 廸夫
オルガン：和田 純子
チェンバロ：太田 由美子

管弦楽：東京交響楽団
合唱指揮：木村 美音子
合唱：東京アカデミー合唱団

2017/9/18^{月/祝} 16時開演 (15時30分開場)
東京オペラシティ コンサートホール

SS券 7,000円 S券 6,000円 A券 5,000円 B券 4,000円 C券 3,000円 2017年6月1日より下記にて一般発売

■東京オペラシティ チケットセンター：TEL 03-5353-9999

■東京アカデミー合唱団：http://www.tokyo-academy.com 予約フォーム TEL 042-555-0854 (遠藤)

公演に関するお問い合わせ

東京アカデミー合唱団：TEL 042-555-0854 (遠藤) E-mail tac.1964.info@gmail.com

【主 催】東京アカデミー合唱団

J.S.バッハ ミサ曲 口短調

バロック音楽の集大成と言われ、演奏においても難曲である《ミサ曲口短調》を、東京アカデミー合唱団は10年を経て再び世に問うこととなった。これは私たちにとって、マエストロ秋山和慶の東京アカデミー合唱団指揮者就任50周年の記念の演奏会でもある。

バロック芸術の特徴は、その名の元の意味が“いびつな真珠”に表されるとおり、ルネサンス期の均衡やロココの優美とは異なる、人間の内面を最大限に表現しようとするものと言える。完全な球形の真珠でなく、“いびつな真珠”に光が当たれば様々な様相を示

すだろう。それがどんなに表情豊かなものであるかは想像できる。そのように、《ミサ曲口短調》は、中のどの曲を取り上げても一つとして同じ様式や形式、作曲技法が用いられることなく、バッハがいかにこの曲に全力を傾注したかが推察できよう。

合唱・独唱とオーケストラ、教会旋法から近代の平均律への過渡的味わい、通奏低音の支えなど聴きどころは多く、演奏の難しさを越えて多彩な表現が求められている。

一方、カトリックの典礼であるミサをプロテスタントのバッハが、なぜこのように自分のすべてを傾注して作曲したのかという点では、当時バッハが置かれた事情もあるが、ミサという非常に整った典礼の内容を最大限に表現し、カンタータとは異なる形式の創作によって普遍的な作品を目指したかとも思われる。

大曲のため実際のミサ典礼に用いられることはなかった。バッハ没後100年余を経て初めて全曲演奏が行われ、その後はこれに多くの合唱団が挑んできた。

このようなすべてを含めて、バッハの最高峰である《ミサ曲口短調》に、私たちは満を持して演奏の時を迎えようとしている。



指揮：秋山 和慶

1941年生まれ。故斎藤秀雄のもとで指揮法を修め、1963年に桐朋学園大学音楽学部を卒業。1964年2月に東京交響楽団を指揮してデビューののち同団の音楽監督・常任指揮者を40年間にわたり務める。

トロント交響楽団の副指揮者を皮切りに、アメリカ響音楽監督、バンクーバー響音楽監督(現在桂冠指揮者)、シラキウス響音楽監督を歴任。サンフランシスコ響、クリーヴランド管、ロサンゼルス・フィル、フィラデルフィア管、ニューヨーク・フィル、ボストン響、シカゴ響、ロイヤル・フィル、NDR北ドイツ放送響、ケルン放送響、スイス・ロマン管、チューリッヒ・トーンハレ管などに客演している。

これまでにサントリー音楽賞、芸術選奨文部大臣賞、大阪府民劇場賞、大阪芸術賞をはじめ、東京交響楽団とともに毎日芸術賞、京都音楽賞大賞、モービル音楽賞などを受賞。2001年紫綬褒章、2011年旭日小綬章を受章。2014年度文化功労者に選出。同年中国文化賞(広島)、徳島県表彰特別功労賞を受賞、2015年渡邊暁雄音楽基金特別賞を受賞。2014年指揮者生活50年を迎え、2015年2月には回想録「ところで、きょう指揮したのは？」(共著/アルテスパブリッシング刊)を出版した。

現在、東京交響楽団桂冠指揮者、広島交響楽団終身名誉指揮者、九州交響楽団桂冠指揮者、中部フィルハーモニー交響楽団芸術監督・首席指揮者、日本指揮者協会第5代会長を務めるほか、洗足学園音楽大学教授、京都市立芸術大学客員教授を務めている。

東京アカデミー合唱団は1967年から常任指揮者・音楽監督として指導していただいている。



ソプラノ
半田 美和子



アルト
谷地 敏子



テノール
鈴木 准



バス
多田 羅 勉夫



管弦楽
東京交響楽団



合唱：東京アカデミー合唱団

1964年9月に134名の有志によって結成されたアマチュア合唱団で、運営はすべて団員自らの手で行われている。初公演のヘンデル「メサイア」以来、古典から現代曲まで様々な名曲をオーケストラとともに歌ってきた。「音楽を愛する心、音楽を創造する喜び」をモットーに、より高いレベルの合唱音楽をめざして、日々研究、努力を重ねている。

東京アカデミー合唱団 指揮陣
音楽監督 / 秋山和慶
合唱指揮者 / 長田雅人 小林幸人 今井治人 若林裕治 吉田行地 木村美音子 安藤敬
発声指導者 / 五木女智恵 成田真 三津山和代 小貫岩夫
ピアニスト / 太田由美子 和田良枝 和氣友久 秋山智美

団員募集

「ミサ曲 口短調」の団員募集は締め切りでしたが、この公演後いっしょに歌ってくださる方を心からお待ちしています。見学の方はいつでも大歓迎です。

- 練習日時 毎週月曜日 / 水曜日 18時30分～21時(どちらかの曜日だけでも可能)
- 練習会場 学生の家 <http://gakuie.com> (最寄り駅: 大久保駅、新大久保駅から徒歩5分)
- 団費 ●一般 5,000円/月 ●30歳未満 3,000円/月 ●24歳未満 1,000円/月 ※費用としては、その他に楽譜代、演奏会費、チケットノルマなどがあります。
- 連絡先 TEL: 042(555)0854(遠藤) ホームページ <http://www.tokyo-academy.com>の「問い合わせ」をご利用下さい。

これからの公演予定

2018年9月30日(日) 東京オペラシティ メンデルスゾーン「エリヤ」(指揮 秋山和慶)

お願い | 未就学児童の入場はご遠慮ください。やむを得ぬ事情により、出演者・その他を変更することがあります。またお買い求めいただいたチケットは公演中止の場合以外キャンセルはできませんので、あらかじめご了承ください。

上智大学グリークラブOB合唱団

CONCERT 2017

2017年10月15日(日) 13:30開場 14:00開演

杉並公会堂 大ホール 全席自由 1,500円

I. The Sound of Spirituals

Were You There Hail Mary! ほか
指揮 太田 務

II. 女声合唱とピアノのための「レクイエム第2番」

～「レクイエム・光のなかの貨物列車よ」より～

作曲 千原 英喜
指揮 鈴木 与志一 ピアノ 前島 あや子
上智大学女声OG合唱団(賛助出演)

III. 男声合唱組曲「水のいのち」

作詩 高野 喜久雄 作曲 高田 三郎
指揮 篠崎 新一 ピアノ 久邇 之宜

IV. 男声合唱組曲「北陸にて」

1962年上智大学グリークラブ委嘱作品

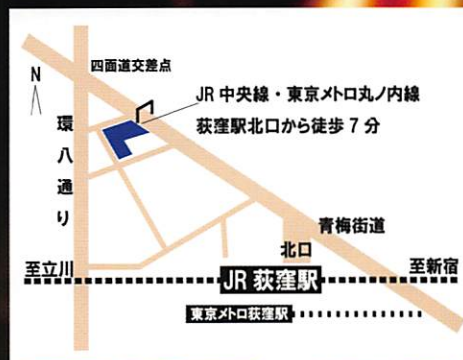
作詩 田中 冬二 作曲 多田 武彦
指揮 太田 務

チケットぴあ

<http://t.pia.jp/>
Pコード(328-270)

お問い合わせ

090-5194-2903(守)
<http://www.sophia-gee.com/ob/>





レクイエム・プロジェクト
東京いのりとき合唱団
第2回定期演奏会

こころ重ねて、
いのりの歌を

Program 作曲: 上田 益
Tu es Petrusのみ 佐伯 康則

パチカン・イタリア演奏旅行記念ステージ

- ・Tu es Petrus (ローマ法王献呈作品)
- ・Ave Maria
- ・Stabat Mater ~悲しみの聖母~ より

ふるさとのうた、いのちのうた

- ・祈る ・生きる (混声合唱組曲「黙礼」より)
作詩: 和合 亮一
- ・とうさんの海 作詩: 宇部 京子
- ・碧の子守唄 作詩: 上田 益
- ・三陸鉄道が行く 作詩: 宇部 京子

Missa Brevis ~平安への祈り~
(ローマ法王献呈作品)

混声合唱組曲「生きとし生けるものへ」(東京初演)
作詩: 上田 由美子

指揮 上田 益

特別出演

Sop 本宮 廉子

Alt 横町 あゆみ

Bas 大塚 雅仁

Pf 田所 夕紀

主催: レクイエム・プロジェクト東京いのりとき合唱団
共催: レクイエム・プロジェクト実行委員会

2017
11/4 sat

開演 14:00 / 開場 13:30

大田区民プラザ 大ホール

全席自由 2,000円 (前売り 1,500円)



チケットは電話、携帯、スマホで! 下記のQRコードからどうぞ。

●お近くのセブンイレブンで受け取れます!

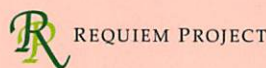
電話予約 カンフェティ チケットセンター 0120-240-540 (平日 10:00~18:00)

※オペレーターが対応します。メモの用意をして、お電話下さい。

お問合せ 東京いのりとき合唱団 電話: 090-3849-0149 (奥田) メール: tokyoinori2017@gmail.com



レクイエム・プロジェクトとは



作曲家・上田 益(うへだ すすむ)が主宰する「レクイエム・プロジェクト」は、人と人、地域と地域をつなぐ合唱プロジェクトとして、阪神・淡路大震災の被災地である神戸で2008年に始まりました。これまで、神戸・東京・沖縄・兵庫県佐用町・長崎・仙台・広島・南相馬・北いわて(北部沿岸地域)・気仙沼といった自然災害や戦災で傷ついた国内10箇所プロジェクトを実施し、そのうち東京・神戸など7箇所で、現在も継続した活動を行っています。また海外公演(プラハ、ウィーン、パチカン、アッシジ、フィレンツェ)も実施しています。

2018年1月21日(日)には、神戸文化ホールにて、10周年記念コンサートが予定されています。



2014年の聖シュテファン大聖堂(ウィーン)における公式コンサートに続き、昨年9月には、カトリックの総本山・パチカン、アッシジの聖フランチェスコ聖堂、及びフィレンツェのサンタ・トリニータ教会にて、有志総勢110名が復興祈念と世界平和への祈りを込めた演奏会を行いました。



上田益プロフィール

京都市立芸術大学音楽学部作曲専攻卒業。廣瀬量平氏に師事。京都音楽協会賞受賞。

1980年度文化庁芸術家国内研修員に選出され、東京にて研鑽を積む。

クラシック音楽の作曲のほか、長野オリンピック公式楽曲「WINTER FLAME」の作曲や神戸ミナリエの音楽、また「1リットルの涙」「黒革の手帖」などのテレビドラマ音楽、NHKの番組音楽などを多数手掛ける。阪神・淡路大震災から15年となる2010年に向け、2008年より追悼と希望の合唱プロジェクト「レクイエム・プロジェクト」を神戸で実施。被災者自らが合唱団員として参加するその活動は、自然災害や戦災で傷ついた全国10箇所に広がり、現在東京・神戸など7箇所で継続した活動を継続中。

海外でもレクイエム・プロジェクトのコンサートが行われ、プラハ(2012年、ドヴォルザーク・ホール)のほか、2014年にはウィーン聖シュテファン大聖堂主催・公式グランドコンサートにおいて、「レクイエム～あの日を、あなたを忘れない～」などを演奏。10分以上のスタンディング・オベーションが続き、教会でのコンサートとしては異例の反響となった。

2016年9月には、パチカン教皇庁の特別な許可を得て、復興祈念、平和への祈りを目的としたレクイエム・プロジェクト「パチカン・イタリア特別公演」を行い、サン・ピエトロ大聖堂、システリーナ礼拝堂(以上パチカン)、聖フランチェスコ聖堂(アッシジ)、サンタ・トリニータ教会(フィレンツェ)で、各被災地からの合唱団有志と共に演奏を行い、大成功を収めた。またこの公演に際し、新作「ミサ・ブレヴィス～平安への祈り～」(全音楽譜出版社刊)を、フランススコ法王に献呈する栄誉を与えられた。

【公式ホームページ】<http://www.composer-ueda.com/>

レクイエム・プロジェクト 東京いのりとき合唱団 団員募集中!

上田益が主宰するレクイエム・プロジェクトに伴い、2010年4月に結成。国内はもとより海外公演にも積極的に参加し、プロジェクトの中核を担う合唱団。レベルは中級程度です。プロジェクト実施各地のコンサートに希望者は参加できます。

練習 金曜日夜6時～9時(多少遅れての参加も可) 原則的に月4回。
上田益の作品(ラテン語および日本語テキストのもの)を中心に、プロジェクトで生まれてゆく楽曲を練習します。

費用 入会金:1,000円(入会時のみ) 月会費:4,000円(学生は2,000円)
諸経費:1,000円(コピー代含む、年1回) ※その他、楽譜代は別途実費

練習会場 九段生涯学習館(地下鉄九段下駅6番出口すぐ)など千代田区内の交通至便な場所。

指導 プロジェクトの主宰者で合唱団代表でもある作曲家・上田益、声楽家の本宮廉子、横町あゆみ、大塚雅仁などがローテーションを組んで行っています。

【お問合せ、入団お申込み】メール: inori@music.nifty.jp 電話:080-5181-6692(上田)

※合唱団の名称にある「いのりとき」は追悼コンサートのタイトルに由来し、特定の宗教活動とは一切関係ありません。

レクイエムプロジェクト
東京いのりとき合唱団
第2回定期演奏会

こころ重ねて、
いのりの
歌を

ご夫婦・親子での
参加も大歓迎!
見学可能です!

早稲田大学
第六十五回
男子合唱の
ための

『東海道』

指揮 作曲

定期演奏会
グリークラブ

四谷怪談

指揮 千原英幸
作曲 保和明

12月3日(日)

会場 すみだトリフォニーホール大ホール
9月2日よりチケット販売開始予定
(全席指定)

●お問い合わせ [早稲田大学グリークラブ事務所]
TEL 03-3208-4100 (月~土 10:40~16:00) ※夏季期間(6月24日~9月1日)の電話対応は休業
メールアドレス waseguri@gmail.com
公式ホームページ http://www.wasedaglee.com/
公式Twitterアカウント @waseda_glee
※曲目は変更になる場合がございます。

東京大学柏葉会合唱団

第64回定期演奏会

日時：2017年12月16日（土）

開場 14:30 開演 15:00 全席自由

会場：昭和女子大学人見記念講堂

プログラム

混声合唱とピアノのための組曲

『夢の意味』

作詩：林望 作曲：上田真樹

Łukaszewski オムニバス

「Memento mei, Domine」,

「Crucem tuam adoramus, Domine」,

「Jubilate Deo」,

「Nunc dimittis」

作曲：Paweł Łukaszewski

他2ステージ

チケット代：1,000円（前売り券）

右のQRコードよりご予約ください。

※当日券は1500円となります

※高校生以下無料



問い合わせ先：hc.64thconcert@gmail.com

080-2771-0938（定期演奏会委員長 橋本）

新入団員 随時募集中！

入団を検討される方は上記連絡先までご一報ください

Naniwa Choraliers ❄️ 多田武彦

なにわコラリアーズ

ただただだけコンサート Vol. 5

男声合唱組曲

「北斗の海」

(草野心平 詩 / 多田武彦 曲)

男声合唱組曲

「雪明りの路」

(伊藤整 詩 / 多田武彦 曲)

男声合唱組曲

「吹雪の街を」

(伊藤整 詩 / 多田武彦 曲)

チケットは
9月頃から
発売予定!

指揮：伊東 恵司

《賛助出演》

合唱団 いひゅうもん

熊本県立第一高等学校合唱団

2018年1月8日(月・祝)

熊本県立劇場

コンサートホール

開場 13:00 開演 14:00 終演予定 16:30

入場料 2,000円 (全席自由)

メンバー募集中!!

資格：男声合唱の好きな人(男性に限る)

指揮者：伊東恵司

練習日：土曜日18-21時

練習場：桜の宮アートホール(環状線桜ノ宮駅)他

団費：練習参加ごとに1000円(現役学生優遇あり)

連絡先：中山 090-3920-1379 山田 090-9884-6911

メール：naniwachoraliers@yahoo.co.jp

ホームページ：http://nanikora.fc2web.com/

*未就学児童のご来場はご遠慮ください。

*演奏会当日、花束等プレゼントはご遠慮ください。

後援：全日本合唱連盟九州支部・熊本県合唱連盟

君は、火の国に雪を見たか。



Facebook
あります

Twitter
やっています

—聴衆と一体となった音楽—

One purpose, Doshisha, thy name
Doth signify; one lofty aim;
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater, sons of thine
Shall be as branches to the vine;
Tho' through the world we wander far and wide,
Still in our hearts thy precepts shall abide!

第113回 同志社グリークラブ 定期演奏会

*The 113th Subscription Concert of Doshisha Glee Club
14th January 2018*

男声合唱組曲

『五つのラメント』

作詩：草野心平 作曲：廣瀬量平

男声合唱とピアノのための

『シーラカンス日和』

作詩：水無田気流 作曲：田中達也



【編曲初演】

『夏の最後の薔薇』

～日本語で歌うイギリス民謡～

編曲：山下祐加

他

2018年1月14日(日) 開場：15時 開演：16時(予定)

会場：京都コンサートホール 大ホール

(京都市営地下鉄烏丸線『北山駅』より徒歩5分)

チケットは
10月下旬頃
販売開始予定!

問合せ：平佐 通(チーフマネージャー) Tel: 090-2062-5855 Mail: doshishaglee.thirasa@gmail.com

新実徳英 作曲 / 川崎 洋 作詩

混声合唱とピアノのための《海を想う》

指揮: 真下洋介 / ピアノ: 小田裕之

鈴木輝昭 作曲 / 観世流謡曲より

《大江山絵詞》無伴奏混声合唱のための

指揮: 清水敬一

三善 晃 作曲 / 作詩不詳

混声六部合唱、尺八、打楽器、十七絃のための

《変化嘆詠》一休諸国物語図絵より

指揮: 清水敬一

尺八: 坂田梁山 / 小鼓: 高橋明邦 / 大鼓: 多田恵子

打楽器: 齋藤綾乃 / 十七絃: 花岡操聖

松本 望 作曲 / 宗左近 作詩

《二つの祈りの音楽》混声合唱とピアノ連弾のための

指揮: 清水敬一

ピアノ連弾: ピアノデュオ・バリ・プラハ (PPP) [十川菜穂・小田裕之]

松原混声合唱団 第23回演奏会

2018

2.25

[日]17:00開演(16:30開場)

東京オペラシティコンサートホール タケミツメモリアル ■—京王新線初台駅直結

全自由席 一般 ¥2,000 (当日 ¥2,500) 高校生以下 ¥1,000 (高校生以下は当日、証明できるものを持参おねがいします)

主催: 松原混声合唱団 後援: 東京都合唱連盟、JCD日本合唱指揮者協会 助成: 公益財団法人 朝日新聞文化財団

|チケットお取扱い|

■東京オペラシティチケットセンター 03-5353-9999

■チケットぴあ <http://ticket.pia.jp/> 0570-02-9999 (Pコード 330-356)

■ローソンチケット <http://l-tike.com/> 0570-000-407 (Lコード 31383)

■e+ イープラス <http://eplus.jp/>

[お問い合わせ] 松原混声合唱団 <http://matubara-chorus.org/> 03-3467-1754 (野村) matubara.chorus@gmail.com

*都合により内容が変更になる場合がございます。未就学児のご入場はご遠慮ください。

■ 5月21日[日]10:00発売

清水 敬一 SIMIZU, Keiichi ■ 常任指揮者

1959年東京生まれ。1982年早稲田大学理工学部電気工学科卒業。指揮法を遠藤雅吉、V. Feldbrill, 合唱指揮を関屋 晋の各氏に師事。現在およそ20の合唱団の指揮を任される。各地で合唱とオーケストラのための作品のコーラスマスターを務め、初演した現代作品も多い。2005年、世界合唱シンポジウムにおいて講師を務める。国内外の音楽祭・作曲コンクール・合唱コンクールの審査員を歴任。著書に『合唱指導テクニック』(NHK出版)。現在、全日本合唱連盟およびJCDA日本合唱指揮者協会理事、東京都合唱連盟理事長、東京芸術大学および同大学附属高等学校講師。



真下 洋介 MASHIMO, Yosuke ■ 練習責任者

1977年東京生まれ。神奈川県立多摩高等学校合唱部で合唱に出会う。早稲田大学に入学とともにコール・フリーゲル、混声合唱団(早混)に在籍。混声合唱団では学生指揮者を務めた。大学卒業後は関屋 晋、清水 敬一、清水 昭、岩本達明の各氏が指導する合唱団で練習責任者や団員として在籍。2004年「カンテムス国際合唱祭(ハンガリー)」の指揮者マスタークラスでディプロマを取得。2008年、2012年全日本合唱コンクール全国大会で早稲田大学コール・フリーゲルを指揮し金賞受賞。松原混声合唱団には2000年に入団、2005年から練習責任者。JCDA日本合唱指揮者協会会員。

ピアノデュオ・パリ・プラハ(PPP) Piano Duo Paris-Prague(PPP)

2015年より活動をはじめ。これまでに、十川菜穂ピアノリサイタル(2015年 紀尾井町サロンホール、宮崎県立芸術劇場)、小田裕之ピアノリサイタル(2016年 都留文科大学)で演奏する。また、熊谷ひばりピアノコンクール受賞記念コンサート(2016年 熊谷文化創造館さくらめいど)ではゲスト演奏に招かれる。2016年9月に東京オペラシティリサイタルホールにて第1回記念リサイタル開催。2017年8月に王子ホールにて第2回リサイタル開催予定。



小田裕之 ODA, Hiroyuki ■ ピアノ

札幌市出身。1998年桐朋学園大学ピアノ科を首席で卒業し(NTT DoCoMo奨学金)皇居内桃華楽堂においての御前演奏会に出演。大学卒業後、プラハ芸術アカデミーにて研鑽を積んだ。近年は共演者としても活躍しておりその演奏に対し「図抜けたピアニスト」(音楽の友)と評された。現在、桐朋学園大学非常勤講師、日本ショパン協会正会員、日本ピアノ教育連盟関東甲信越支部運営委員、全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)正会員、2014年度ピティナ特別指導者賞受賞。

十川菜穂 SOGAWA, Naho ■ ピアノ

桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部卒業後渡仏。パリ・エコール・ノルマル音楽院修了。国立ブローニュ音楽院伴奏科をプルミエ・プリを取得し修了。ピカルディー・ヨーロッパ音楽コンクール第1位、イル・ド・フランス国際ピアノコンクール第2位など受賞。帰国後は演奏活動と同時に桐朋学園大学附属音楽教室講師を経て、都留文科大学専任講師、桐朋学園大学非常勤講師として後進の指導に当たる。金澤希伊子、G.ムニエの各氏に師事。



坂田梁山 SAKATA, Ryozan ■ 尺八

香川県生まれ。神戸大学在学中より岸原周山・川村泰山に師事。NHK邦楽技能者育成会第30期卒業。第13回都山流本曲コンクール金賞・文部大臣賞受賞ほか、各種コンクールで受賞。CD録音、テレビ、ラジオに多数出演。鬼太鼓座公演、劇団四季ミュージカルミュージカル出演に加え、南こうせつ、小椋 佳との共演等、古典から現代音楽に至るまで幅広く活動を行う。都山流尺八大師範。桐朋学園芸術短期大学日本音楽尺八科非常勤講師。



高橋明邦 TAKAHASHI, Akikuni ■ 小鼓

桐朋学園大学音楽学部卒。打楽器全般のほか、指揮合奏法を齊藤秀雄に師事。卒業後、和洋両打楽器奏者、指揮者として、サイトウ・キネン・オーケストラ、日本音楽集団、東京混声合唱団、日本オペラ協会、日本現代音楽協会などで活躍。初演曲多数。また現代邦楽合奏指導者として、日本音楽集団研究生、NHK邦楽技能者育成会等の講師を務める。作曲家 三善 晃氏とともに地域に根差した音楽創造活動にも力を注ぎ、その集大成として2001年「大地の鼓響」開催。天皇皇后両陛下の御臨席を賜る。現在、桐朋学園大学音楽学部特別招聘講師、障害者塾「ゆきわりそう」講師。



多田恵子 TADA, Keiko ■ 大鼓

洗足学園音楽大学打楽器科卒業。東京芸術大学別科邦楽離子専攻修了。現在、フリーランスの打楽器奏者として、オーケストラや室内楽のコンサートを中心に、オペラ・ミュージカル・新作歌舞伎・テレビ・ラジオ出演のほか、様々なジャンルのアーティストのレコーディング、CD制作等に参加。琵琶とマリンバのデュオ「まーぶる」、邦楽器オーケストラ「日本音楽集団」メンバー。打楽器を岡田知之、志田美津子、マリンバを藤井むつ子、神谷百子、邦楽打楽器を望月太喜雄の各氏に師事。



齋藤綾乃 SAITO, Ayano ■ 打楽器

桐朋オーケストラ・アカデミー研修課程修了。2016年加藤訓子INC.プロジェクトとサイスタジオ共催、ドラマリーディングとパーカッション公演「プルーフ・証明」出演。同年NHK-BSプレミアムにてクラシック倶楽部「打楽器百花繚乱」出演。これまでに山田 徹、松倉利之、佐野恭一、安江佐和子、萱谷亮一、宮崎泰二郎、故 塚田吉幸の各氏に師事。2ピアノ×2打楽器アンサンブル「Happiness Cafe」、打楽器だけのアンサンブル「IKAFRY」メンバー。(公財)千葉交響楽団 打楽器奏者。

花岡操聖 HANAOKA, Sousei ■ 十七絃 東京都出身。3歳より箏の手ほどきを母より受ける。箏・二十絃箏(1991年以降は二十五絃箏)、地歌三絃を二代 野坂操壽氏に師事。1998年より1年間、地歌三絃を深海さとみ氏に師事。東京芸術大学邦楽科卒業。在学中、宮城賞受賞。桐朋学園芸術短期大学専攻科および研究生修了。在学中より邦楽器のみならず西洋楽器や声楽との共演を重ねる。第2回東京・邦楽コンクール第3位。第21回賢順記念くめ全国箏曲コンクール奨励賞。2012年度文化庁新進芸術家育成事業研修生。研修中、地歌三絃を人間国宝・富山清琴、箏歌を岸辺美千賀の各氏に師事。これまでにリサイタルを3回行う。現在、桐朋学園芸術短期大学非常勤講師。生田流箏曲松の実習師範。(公社)日本三曲協会、生田流協会、森の会、桐の響各会員。二十五絃箏ユニット虹「KOU」メンバー。古典から現代曲まで幅広く演奏活動を行っている。



松原混声合唱団 Matubara mixed chorus

1953年に東京都世田谷区松原で誕生。1962年より関屋 晋の指導を受け、1973年全日本合唱コンクール全国大会に初出場で金賞を受賞。1980年小澤征爾指揮マーラー《千人の交響曲》が演奏される際、関屋 晋指導の合唱団の連合体である晋友会合唱団が誕生後は、その一員としてベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ドレスデン国立歌劇場管、ボストン響、N響、都響、日本フィル、新日本フィル、シエナ・ウインド・オーケストラほか内外のオーケストラとの共演、テレビ出演、レコーディングなどを行っている。松原独自としても新実徳英、鈴木輝昭、松本 望をはじめ日本を代表する作曲家の合唱曲初演も数多い。2011、2015年「ラ・フォル・ジュルネ」においてオーケストラ・アンサンブル金沢と共演するなど新しい活動にも取り組んでいる。常任指揮者、清水 敬一。

新入団員募集中 | 入団時30歳未満 | 松原混声合唱団: <http://matubara-chorus.org/rc/> 03-3467-1754 (野村) matubara.chorus@gmail.com

松原混声合唱団

ライヴCD好評発売中

指揮: 清水 敬一、真下 洋介



ブルーblank《人間の顔》
三善 晃 《五柳五酒》
新実徳英《英霊たちの歌》
ほか
松原混声合唱団 第22回演奏会

OSBR-32006 ¥2,700(税込)



新実徳英《つぶてソング第2集》
《決意》
松本 望 《天使のいる構図》
ほか
松原混声合唱団 第21回演奏会

OSBR-30008-9 2枚組 ¥3,086(税込)



新実徳英《つぶてソング第1集》
《死者の贈り物II》
松本 望 《歌が生まれるとき》
ほか
松原混声合唱団 第20回演奏会

OSBR-28020 ¥2,700(税込)

Verdi Messa da REQUIEM

G.ヴェルディ：レクイエム

サントリーホール 大ホール

2018年3月7日(水)
18:30 開場 / 19:00 開演



山口敦

指揮 **小林研一郎**
管弦楽 **日本フィルハーモニー交響楽団**
合唱 **武蔵野合唱団**



Sop. 森 麻季



Mez. 山下 牧子



Ten. 西村 悟



Bas. 妻屋 秀和

チケット料金

S席 6,000円 A席 5,000円 B席 4,000円 ヤングシート 1,500円 ※30歳以下の学生のみ
合唱団HPにて販売受付

未就学児のご入場はご遠慮ください。やむをえない事情により、出演者等が変更になる場合があります。

チケット問い合わせ

武蔵野合唱団公式サイト予約フォーム
サントリーホールチケットセンター
サントリーホールメンバーズWEB
チケットぴあ

<http://musashino-chorus.com>

080-4811-4866

0570-55-0017

<http://suntoryhall.pia.jp/>

<http://www.pia.jp/>

Pコード：332-584

セブン・イレブン、サークルK・サンクス、チケットぴあ店舗

2017年7月1日(土) 一般発売開始

小林研一郎 × 武蔵野合唱団によるヴェルディ「レクイエム」 45年の時を経て、新たな境地へ…

宗教音楽の枠を超えた劇的な旋律の中に哀愁と静寂の美が共存するヴェルディの「レクイエム」は、小林研一郎先生にとっても武蔵野合唱団にとっても「特別な」曲です。今回の演奏会から45年を遡る1973年、当団第7回定期演奏会において、小林先生は初めてプロオーケストラを指揮し、この曲を演奏しました。後に世界的な指揮者となる先生のデビューを飾り、その後も数多くの名演を残している曲です。そして武蔵野合唱団にとって、圧倒的な音量と、凄みすら感じさせるピアノシモを要求するこの曲は、その後の「武蔵野らしさ」を形づくるうえでも重要な、里程碑とも言うべき一曲になりました。以来、小林先生と武蔵野合唱団との、ヴェルディ「レクイエム」の演奏は10回を数えます。日本フィルとは、日本フィル定期演奏会への出演を含めて3回、小林先生が常任指揮者、音楽総監督等を務めたハンガリー国立フィルの来日公演でも3回演奏しています。指揮者と合唱団が共に、「ここぞ！」という時には、この曲がプログラムを飾ってきました。そして、それらの演奏のたび、私たちは小林先生によって新しいヴェルディ「レクイエム」の世界へ誘われ、又、「武蔵野らしさ」を再考し、団は進化を続けてきました。当合唱団にとっては、自らを顧みると同時に新しい「武蔵野らしさ」に挑戦できる曲なのです。

今回は第50回定期という節目の演奏会となります。これまでに当団の演奏会に足をお運びいただいた皆さんも、最高のソリスト、オーケストラ、ホールで、「小林研一郎 × 武蔵野合唱団」がお届けする新しいヴェルディ「レクイエム」をお楽しみ下さい。

武蔵野合唱団



小林研一郎

指揮者

東京藝術大学作曲科および指揮科卒業。第1回ブダペスト国際指揮者コンクール第1位、特別賞受賞。ハンガリー国立交響楽団音楽総監督、日本フィル音楽監督、アーネム・フィル常任指揮者をはじめ、国内外のオーケストラのポジションなどを歴任。ハンガリー政府よりリスト記念勲章、ハンガリー文化勲章、星付中十字勲章、2010年にはハンガリー文化大使の称号が授与されている。2011年文化庁

長官表彰を受け、2013年秋の叙勲では旭日中綬章が授与された。現在、日本フィル桂冠名誉指揮者、ハンガリー国立フィルおよび名古屋フィルの桂冠指揮者、読売日響の特別客演指揮者、九州交響楽団の名誉客演指揮者、東京文化会館音楽監督、長野県芸術監督団音楽監督、東京藝術大学、東京音楽大学およびリスト音楽院名誉教授などを務める。



日本フィルハーモニー交響楽団

管弦楽

1956年6月創立、楽団創設の中心となった渡邊暁雄が初代常任指揮者を務める。2016年6月に創立60周年を迎えた。首席指揮者ピエタリ・インキネン、桂冠名誉指揮者小林研一郎、桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフ、正指揮者山田和樹、ミュージック・パートナー西本智実という充実した指揮者陣を中心に演奏会を行い、「音楽を通して文化を発信」している。2011年4月より、聴衆からの募金をもとにボランティア活動「被災地に音楽を」を開始、現在でも継続している。

オフィシャル・ウェブサイト <http://www.japanphil.or.jp>



森 麻季

ソプラノ

東京藝術大学、同大学院、文化庁オペラ研修所修了後、ミラノとミュンヘンに留学。プラシド・ドミンゴ世界オペラコンクールをはじめ、多数の国際コンクールに上位入賞。ワシントン・ナショナル・オペラ「後宮からの逃走」でアメリカデビュー。ドレスデン国立歌劇場、エディンバラ音楽祭、トリノ王立歌劇場に出演し国際的な評価を高める。透明感ある美声と深い音楽性は各方面から絶賛され、日本を代表するオペラ歌手として常に注目を集めている。ワシントン・アワード、出光音楽賞、ホテルオークラ賞、安宅賞受賞。



山下 牧子

メゾソプラノ

広島大学を経て東京藝術大学大学院に学ぶ。第1回東京音楽コンクール第1位。新国立劇場や二期会等でモーツァルト、ヴェルディ他数多くのオペラに出演しており、近年では'16年二期会『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、'17年新国立劇場『蝶々夫人』スズキで高い評価を得ている。またコンサートでも大晦日のベートーヴェン全交響曲連続演奏会「第九」、デュトワ指揮『カルメン』（演奏会形式）、パッティスターニ指揮ヴェルディ「レクイエム」等で活躍。二期会会員



西村 悟

テノール

日本大学芸術学部、東京藝術大学大学院修了。リッカルド・ザンドナーイ国際声楽コンクール第2位、日本音楽コンクール第1位。山田和樹指揮スイス・ロマンド管弦楽団&武蔵野合唱団とメンデルスゾーン「讃歌」を共演。大野和士指揮バルセロナ響との共演でヨーロッパデビュー。オペラでは「ラ・トラヴィアータ」「蝶々夫人」「仮面舞踏会」「ラインの黄金」に出演。五島記念文化賞オペラ部門オペラ新人賞、出光音楽賞。藤原歌劇団団員。在ヴェローナ。



妻屋 秀和

バス

東京藝術大学卒業。同大学院修了後、ミラノに留学。'94年-'01年ライプツィヒ歌劇場、'02年-'11年ワイマール・ドイツ国民劇場の専属歌手を務め、『ドン・カルロ』フィリッポ二世等を演じる。他にもプレゲンツ湖上音楽祭、ドイツ・ライン・オペラ、ハノーバー州立歌劇場等へ出演。国内では新国立劇場、二期会等で『魔笛』ザラストロ、『さまよえるオランダ人』ダーラント等日本を代表するバスとして活躍。第24回ジローオペラ賞、第3回ロシヤ歌曲賞受賞。二期会会員

武蔵野合唱団

合唱

1955年に武蔵野市緑町に創立。これまでに小林研一郎氏、山田一雄氏、本名徹次氏、下野竜也氏、山田和樹氏、松井慶太氏等を指揮者に招き国内外のオーケストラと共演。定期演奏会に加え、国内外演奏旅行等活動は多岐に渡り、過去4回ハンガリー演奏旅行を実施した他、ハンガリー国立フィルやスイス・ロマンド管弦楽団を迎えて数多くの国内演奏会を開催している。2018年9月には山田和樹氏の当団指揮20周年を記念してメンデルスゾーン作曲、オラトリオ「エリヤ」を演奏予定。団員数約200名。



2017年6月、埼玉に、新社会人・院生を中心とした一般合唱団

「Sparkling a Live !」

が誕生します。

団名には、

「団員ひとりひとりがきらきらと輝きながら生き（Sparkling and Alive）、
きらめきに満ちたライブ演奏（Sparkling Live）を行うことのできる団」
になりたいという想いをこめました。

幅広いジャンルの作品に取り組み、シアターピースや合唱劇など、
合唱音楽の様々な可能性を探求したいと考えています。

合唱を愛するみなさん、
新しく生まれる「Sparkling a Live !」で、
合唱音楽のさらなる輝きを、一緒に追いかけてみませんか。

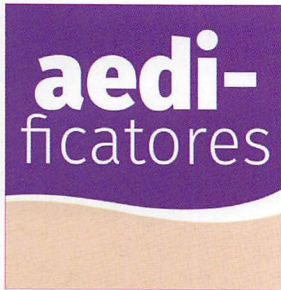
新合唱団 オープニングメンバー 募集
Sparkling a Live !

Conductor
仁階堂 孝

日本合唱指揮者協会理事
尚美学園大学講師



<https://aedificatores.net/>



作曲家と交流できる新しい合唱団メンバー募集

エディフィカトーレス東京(通称「aedi(エディ)」)

若手作曲家および著名な指揮者との強い繋がりを持つ音楽出版社 Miela Harmonija プロデュースによる、コンセプト主導の新しい合唱団 aedificatores (エディフィカトーレス) が創設されました。東京だけでなく、福岡・名古屋などでもそれぞれ活動し、共同で委嘱・演奏会などの活動を行う予定です。

日本には優秀な作曲家の方々が作った名曲が数多く存在し、日本の多くの合唱団がそうした曲を好んで演奏するため、同時代を生きる新しい作曲家の作品が世に出る機会は多くありません。であれば、若手作曲家の作品にフォーカスした合唱団が、まだまだ知られていない近作・新作を歌うなら、新しい作品が世に出て、合唱曲のレパートリーが多様化すると考えます。

新進気鋭の作曲家の方々と緊密に連携・交流し、生み出されたばかりの曲、これから生まれてくる新曲を作曲家と共に創り上げることで、未知の発見と喜びを味わえます。

ディレクター(指揮)による本格的・体系的な練習・ボイトレに加え、全国大会などで活躍する優れた指揮者の方々をゲスト講師として招き、一流の指導を体験する機会も設け、数多くの学びの場を提供します。今までにない、ワクワクするような経験をしてみませんか？

aedificatores とはラテン語で「作り上げる人たち」「建てる人たち」を意味します。これからの合唱界の新しいレパートリーを、作曲家と一緒に文字通り「作り上げていく」ことを意図しています。

詳細は、<https://aedificatores.net/> のウェブサイトを参照してください。

■ ディレクター(指揮)：森田悠介



東京学芸大学教育学部中等教育教員養成課程音楽専攻を卒業。合唱指揮を松下耕氏に、声楽を大野徹也氏に、ピアノを椎野伸一氏に、それぞれ師事。

2003年、混声合唱団 scatola di voce を結成。これまでに全日本合唱コンクール埼玉県・関東・全国大会においてそれぞれ優秀な成績を取っている。2015年4月には四大学女声合唱連盟ジョイントコンサートの合同ステージを指揮し、好評を博す。歌い手としても海外のフェスティバルや国際コンクールに参加するなど、精力的に合唱活動を行っている。リチャード・ミラー氏による発声指導法、カルドシュ・パール氏による純正調ハーモニー感覚の育成を体系的に指導・実践している。合唱音楽をするときに横たわる数々の課題を一つ一つ分かりやすく解きほぐし、合唱団員が「やわらかく自由な心で合唱ライブを楽しめる」ようサポートすることを活動の信条とし、YouTube 番組「合唱音楽学校ちゃんねる」をその柱の一つとして運営する。

現在、桜楓合唱団、上尾児童合唱団、scatola di voce、Chrysanthemum、コーラス 菖蒲、aedificatores に指揮者として携わる他、各団体・学校などで合唱講師を務める。日本合唱指揮者協会会員。

■ 練習日・場所：毎週月曜夜、中央区、文京区内

■ 協力予定の作曲家(敬称略)：三宅悠太、森田花央里、面川倫一、佐藤深雪

活動内容

活動目的：

団員ひとりひとりがきらきらと輝きながら生き（Sparkling and Alive）、きらめきに満ちたライブ演奏（Sparkling Live）を行うことのできる団をめざします。

緻密なアンサンブルを構築し、合唱音楽の世界を深く探求します。歌い手と聴き手が一緒になってその探求を楽しむことのできるような、魅力的な音楽を作っていきたいと考えています。

演奏機会：

- ・各種コンクール、合唱祭への出演
- ・様々な趣向を凝らした演奏会の開催

演奏曲：

ルネサンス期のモテット・マドリガルから、現代邦人の作品まで、多種多様な曲に取り組みます。

また、シアターピースや合唱劇なども積極体に演奏し、枠にとらわれない演奏活動を行います。

お問い合わせ先/SNS

Mail sparkling.a.live@gmail.com

Twitter @Sparkling_aLive

Facebook <https://www.facebook.com/Sparkling.a.Live/>

団員募集

募集人数：

ソプラノ・アルト・テノール・バス 各5名ほど

活動日時：

毎週金曜日夜 19:00～21:30（予定）

練習場所：

和光市など、都内からのアクセスも良い埼玉県内の公共施設（予定）

団費：

¥4,000/月（学部生は¥2,500/月）

参加条件：

入団時点で30歳以下の方。原則として毎回の練習に参加し、自力で譜読みを完了できる方。

当団の趣旨に賛同し、意欲的に活動して下さる方の参加をお待ちしています。

★ 2017年6月練習予定 ★

☆ 2日（金）

9日（金）

☆ 16日（金）

23日（金）

☆ 30日（金）

☆は仁階堂先生レッスン日。
詳細はSNSをご覧ください。
お問い合わせください。

常任指揮者

仁階堂 孝 Takashi Nikaido

Profile：

合唱指揮者。尚美学園大学兼任講師。現在、Sparkling a Live! を始めとして10余団の合唱団の常任指揮者の他、各地でのコンクール審査員、講習会や合唱祭の講師、客演指揮者としても活躍中である。作曲家と協力しての新作の紹介にも意欲的に取り組み、これまでに大田桜子、川崎智徳、瑞慶覧尚子、高嶋みどり、千原英喜、信長貴富、松下耕、松永ちづる諸氏を始めとして様々な作曲家の作品の初演指揮を行っている。

2003年4月にエストニアの首都タリンで行われた合唱コンペティションTallinn2003 においてEnsemble Evergreenを指揮し室内合唱部門第1位を受賞。2017年3月にスペインのモンセラートで行われた国際コンペティションGolden Voices of Montserratでは、彩の国コンソーシアム合唱団KIRARA☆Mixedを指揮し、エントリーしたアカデミック部門、教会音楽部門、民族（正統）音楽部門、3部門全てにおいて、1st Prizeを受賞。全参加団体のうち最高位の合唱団に与えられる総合グランプリも併せて受賞した。また、2016年には、NHK全国学校音楽コンクール中学校部門課題曲「結-ゆい-」の初演指揮を担当した。

日本合唱指揮者協会理事。尚美学園大学合唱団指揮者。



Message for you!：

一人ひとりが輝いて弾けるようなアンサンブルを主体的に奏でるグループになればと夢見ています。

首都圏の若い世代の皆さん、あなたの「輝き」をこのグループに加えてみませんか！

仁階堂 孝